

2040年に向けた高等教育のグランドデザイン

(答申)

平成30年11月26日

中央教育審議会

たな社会を牽引する能力が求められる<sup>6</sup>。一言で言えば、AI には果たせない真に人が果たすべき役割を十分に考え、実行できる人材が必要となるのである。

### (我が国の世界における位置付けと高等教育への期待)

2040 年を迎えるとき、我が国が世界の中で、どのような役割を果たすことができるのか、という観点は、我が国の高等教育の将来像を考える上で重要である。これまで我が国は、教育の力で人材と知的な財産を生み出し、世界の中で活躍の機会を得てきた。現在、我が国は、課題先進国として、少子高齢化や環境問題、経済状況の停滞等、世界の国々が今後直面する課題にいち早く対応していく必要に迫られている。成熟社会を迎える中で、直面する課題を解決することができるのは「知識」とそれを集約し、組み合わせることで生み出す新たな価値となる「新しい知」である。その基盤となるのが教育であり、特に高等教育は、我が国の社会や経済を支えることのみならず、世界が直面する課題の解決に貢献するという使命を持っている。

世界の高等教育においては、国内の教育機会の提供の段階から、近隣諸国を含めた域内の教育機会の提供の段階を経て、高等教育がまだ充実していない地域での教育機会の提供の段階、そして、MOOC (Massive Open Online Course:大規模公開オンライン講座) をはじめとするオンラインでの教育機会の提供の段階へと在り方の多様化が進み、広がりを見せている。この変化を踏まえれば、高等教育システムは、国、地域を越えて展開される「オープン」な時代を迎えていると言える。

国境を越えた大学間競争は、世界大学ランキング等の影響もあり激化しており、国家を巻き込んだ競争に発展している。他方、情報通信技術の進歩等とも相まって、かつては相互に独立的に、あるいは孤立的、対立的に発展してきたそれぞれの社会セクターにおいても、他の社会セクター等との間の相互の参加や連携が不可欠となり、これらの動きにより、今日の社会にふさわしい形での自らの存立基盤や独自性の強化につながるということも増えてきている。大学も例外ではなく、大学間の国際的な連携・協力や、高等教育システムの調和を基礎として、高等教育の国際協力も進展している。既に人類が抱える課題は国境を越えたものとなっており、人類の普遍の価値を常に生み出し、提供し続ける高等教育を維持・発展させ

---

<sup>6</sup> 「Society5.0を牽引するための鍵は、技術革新や価値創造の源となる飛躍知を発見・創造する人材と、それらの成果と社会課題をつなげ、プラットフォームをはじめとした新たなビジネスを創造する人材であると考えられる。」  
「Society5.0において我々が経験する変化は、これまでの延長線上にない劇的な変化であろうが、その中で人間らしく豊かに生きていくために必要な力は、これまで誰も見たことがない特殊な能力では決してない。むしろ、どのような時代の変化を迎えるとしても、知識・技能、思考力・判断力・表現力をベースとして、言葉や文化、時間や場所を超えながらも自己の主体性を軸にした学びに向かう一人一人の能力や人間性が問われることになる。」  
特に、共通で求められる力として、①文章や情報を正確に読み解き、対話する力、②科学的に思考・吟味し活用する力、③価値を見つけ出す感性と力、好奇心・探究力が必要であると整理した。」(「Society5.0に向けた人材育成」平成30年6月5日 Society5.0に向けた人材育成に係る大臣懇談会)

(出典) 中央教育審議会「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」(平成30年11月26日)

## 第1章 新たな知を発見する基礎研究

第1部「基礎研究による知の蓄積と展開」の第1章として、過去にノーベル賞を受賞した我が国を代表する研究者の言葉を振り返りつつ、基礎研究の持つ本質とその重要性について触れるとともに、基礎研究を支える基盤的な力の現状分析（論文数、研究資金、研究人材、研究環境等）を行う。

### 第1節 基礎研究の重要性

基礎研究は主に「真理の探究」、「基本原理の解明」や「新たな知の発見、創出や蓄積」などを志向する研究活動である。それは誰も足を踏み入れたことのない知のフロンティアを開拓する営みであり、研究者たちは絶えず独創的なアイデアや手法を考案し、試行錯誤を繰り返しながら、少しずつ未知を既知へと変えていく。このため、研究領域によって研究期間などの状況は大きく異なる<sup>1</sup>ものの、基礎研究は目に見える成果が現れるまで長い時間を要したり、その成果がどのような役に立つのかが直ちに分からなかったりすることが多い。しかしながら、その結果として解明・創出された「真理」、「基本原理」や「新たな知」は、科学的に大きな価値があることはもちろん、既存の技術の限界を打破し、これまでにない革新的な製品やサービスを生み出すなど、私たちの暮らしや社会の在り方を大きく変える可能性を秘めている。

また、昨今の社会は、経済成長や生産性向上のみを目指すのではなく、将来像や価値観が多様化し、それらが混在する様相を呈している。地球規模課題への挑戦である持続可能な開発目標（SDGs<sup>2</sup>）達成に向けた取組の推進、デジタル革新と多様な人々の想像・創造力の融合によって、社会の課題を解決し、価値を創造する社会を目指すSociety 5.0等の推進が求められる、変革と多様性の時代へ移っている。IoT<sup>3</sup>（科学技術が以前からは想像できないほど急速に進展し、モノ（物）がインターネットに接続される情報通信技術）や人工知能（AI<sup>4</sup>）、遺伝子改変技術等の革新的技術の登場がこれまで以上に経済、社会及び政治に影響を及ぼすようになった。我が国においても、資本設備への依存度が高く、製品が価値の中心とされている資本集約型から、スマート化によってあらゆる製品やサービスの高付加価値化が進んだ知識集約型と呼ばれる社会への転換が起きている。

この知識集約型社会においては、多種多様な知をどれだけ糾合できるかによって将来の可能性や選択肢が変わってくる。そのため、「真理の探究」、「基本原理の解明」や「新たな知の発見、創出や蓄積」など、卓越した新たな発想を追求し、創造する知的活動である「基礎研究<sup>5</sup>」における多様性と厚みが重要となる。その多様性と厚みを生み出すために、研究者の内在的動機（「知りた

1 情報科学や生命科学などの分野での基礎研究は、その成果が社会で応用されるまでの期間が比較的短く、民間企業からの研究資金も集まりやすい一方、数学や素粒子物理学などの分野では、その成果が社会で応用されるまでの期間が比較的長い。

2 Sustainable Development Goals

3 Internet of Things

4 Artificial Intelligence

5 基礎研究は「特別な応用、用途を直接に考慮することなく、仮説や理論を形成するため又は現象や観察可能な事実に関して新しい知識を得るために行われる理論的又は実験的研究」と定義される（総務省統計局「科学技術研究調査報告」）。また、研究の種類は、研究の性格（基礎—応用—開発）と研究の契機（学術—戦略—要請）の二つの観点によって分類できる。「基礎研究」とは、研究の性格に基づく観点によるものであり、「個別具体的な応用、用途を直接的な目標とすることなく、仮説や理論を形成するため又は現象や観察可能な事実に関して新しい知識を得るために行われる理論的又は実験的研究」である。他方、「学術研究」とは、研究の契機に基づく観点によるものであり、「個々の研究者の内在的動機に基づき、自己責任の下で進められ、真理の探究や科学知識の応用展開、さらに課題の発見・解決などに向けた研究」である（科学技術・学術審議会 総合政策特別委員会「我が国の中長期を展望した科学技術イノベーション政策について～ポスト第4期科学技術基本計画に向けて～（最終取りまとめ）」（平成27年9月））。

（出典）文部科学省「令和元年版科学技術白書」（令和元年5月）

令和3年1月22日  
学術分科会人文学・社会科学特別委員会

## 人文学・社会科学を軸とした学術知共創プロジェクト(審議のまとめ)

### I. 検討の背景

○人文学・社会科学の役割やその振興方策については、これまでも学術分科会や日本学術会議などにおいて長年にわたり議論<sup>1</sup>され、一定の提言やそれに基づく政策形成が図られてきた経緯がある。

○こうした中であって、平成30年12月に学術分科会人文学・社会科学振興の在り方に関するワーキンググループが取りまとめた「人文学・社会科学が先導する未来社会の共創に向けて(審議のまとめ)」(以下「審議のまとめ」という。)においても、人文学・社会科学の重要性を強調しつつ、なお直面する克服すべき諸課題として、以下のような指摘がなされた。

- ・研究分野が過度に細分化している、現代社会が対峙している社会的課題に対する十分な応答ができていないとの指摘が今も少なくなく、現代においては、個々の専門的な研究がマクロな知の体系との関連付けを得ることが難しくなっている状況にあること
- ・自然科学による問題設定が主導する形となって人文学・社会科学の研究者が専門性との関連でインセンティブを持ちにくいこと、人文学・社会科学の学問体系で蓄積された知を自然科学から発せられる具体的なニーズに生かすには距離があること

---

<sup>1</sup> 「人文・社会科学の振興について-21世紀に期待される役割に応えるための当面の振興方策-(報告)」(平成14年6月11日 科学技術・学術審議会 学術分科会)、「人文学及び社会科学の振興について(報告)-「対話」と「実証」を通じた文明基盤形成への道-」(平成21年1月20日 科学技術・学術審議会 学術分科会)、「リスク社会の克服と知的社会の成熟に向けた人文学及び社会科学の振興について(報告)」(平成24年7月25日 科学技術・学術審議会 学術分科会)、「学術研究の総合的な推進方策について(最終報告)」(平成27年1月27日 科学技術・学術審議会 学術分科会)、「21世紀における人文・社会科学の役割とその重要性-「科学技術」の新しいとらえ方、そして日本の新しい社会・文化システムを目指して-」(平成13年4月26日 日本学術会議)、「日本の展望-人文・社会科学からの提言-」(平成22年4月5日 日本学術会議 日本の展望委員会 人文・社会科学作業分科会)、「学術の総合的發展をめざして-人文・社会科学からの提言-」(平成29年6月1日 日本学術会議第一部 人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会)

○このような諸課題を克服するために、審議のまとめでは、

- ・人文学・社会科学に固有の本質的・根源的な問いに基づく大きなテーマを設定し、その中に自然科学も含む分野を超えた研究者が参加し、問いに対する探究を深めていく共創型のプロジェクトを行うことが有効であること
- ・大きなテーマの下で提案を募り、その提案を異分野の研究者が相互に交換・議論していくための組織体制を整備する必要があること
- ・体制整備においては、研究者間のネットワークの構築のほか、人文学・社会科学と自然科学の双方に精通する人材育成や国際ネットワークのハブとなることを意識した取組が期待されていること

とされた。

○このような経緯を踏まえ、本委員会において、以下Ⅱ～Ⅴに示すとおり、事業の目的、大きなテーマの設定、事業の実施体制など、骨格となる基本的事項について検討を行ったところである。

## Ⅱ. 目的

○現在、研究者の研究を支援する競争的資金としては、科学研究費助成事業、戦略的創造研究推進事業などがあるが、いずれも研究の実践に対する支援であり、実際の研究体制（研究チーム、研究課題とその実施に望ましい研究支援の在り方をいう。以下同じ。）の確立に至るまでの考察のプロセスに焦点を当てたものではない。

○他方で、Society5.0 やSDGs などに示される人間中心で多様性のある持続可能な社会を見据えていくという文脈にあって、意味や価値を探究し、時に多元的で代替的な見方を提供できる（Reflective capacity）人文学・社会科学ならではの特質が果たす機能が大きいことは明らかであり、人文学・社会科学の取組を支援しその機能を最大限引き出しながら、時代の要請に機動的かつ的確に対応するための体制整備が求められている。

○本委員会としては、これまでの各種提言や既存の競争的資金の性格を踏まえれば、まずは、本事業が目指すべきものとして、現状において解決策が十分には探究されていない、あるいは問題が顕在化していないが、来るべき未来社会を見据え、その社会の構想のために、我が国の人文学・社会科学の知がどのように貢献でき、何をなし得るかを考察するプロセスの体系化を試みてはどうかと考え

る。

○そのうえで、具体の研究実践を通じ、学術研究の振興、ひいては科学技術イノベーション<sup>2</sup>の創出へとつなげていく取組が求められる。

○このような考え方に立てば、本事業の目的は、未来の持続可能な社会の姿を想定し、そこで求められる新しい考え方や技術、社会的課題を提示するとともに、人文学・社会科学を軸とした新たな学術知を共創することとするのが適当であり、これを達成するため以下①～④に取り組むこととする。

- ① 共創の手段として、人文学・社会科学の研究者がイニシアチブを持ちつつ、未来社会の構想に能動的に参画するためのプラットフォーム、すなわち共創の場を提供する。
- ② 共創の場においては、人文学・社会科学固有の本質的・根源的問いから生じる大きなテーマの下で、自然科学の研究者はもとより、社会の多様なステークホルダー（産業界、NGO、マスコミ、行政、公益法人等をいう。以下同じ。）も関与する形で知を共創しながら、未来の社会課題に向き合うための考察のプロセスを体系化する。
- ③ 考察のプロセスにおいては、それぞれの研究チームが、新たな知識基盤（研究者間のネットワークや国際ネットワーク等）を構築することや、人文学・社会科学と自然科学の双方を俯瞰できる人材の育成、世代間の協働等に意識的に取り組むことを通じ、従来の学術評価だけではない新たな評価の在り方について検討する。
- ④ 考察のプロセスを通じて共創の場で創り込まれた研究体制をもとに、具体の研究実践を行う。

### III. 大きなテーマ

○本事業では、Society5.0 やSDGs など国レベルや国際社会レベルで推進されているテーマや考え方を参考にしつつ、現状ある諸課題やそれに対する取組を踏まえながら、解決策が十分には探究されていない、あるいは問題が顕在化していない30～50年先（2050～2070年頃）の国際社会や我が国社会を見据えた長期的な視座が必要なもので、かつ人文学・社会科学分野が中心となって取り組むことが適当と考えられる大きなテーマを3つ提示する。

---

<sup>2</sup> 科学的な発見や発明等による新たな知識を基にした知的・文化的価値の創造と、それらの知識を発展させて経済的、社会的・公共的価値の創造に結び付ける革新（第5期科学技術基本計画（平成28年1月22日閣議決定）より）

（出典）学術分科会人文学・社会科学特別委員会「人文学・社会科学を軸とした学術知共創プロジェクト（審議のまとめ）」（令和3年1月22日）

「我が国産業における人材力強化に向けた研究会」  
(人材力研究会)

報告書

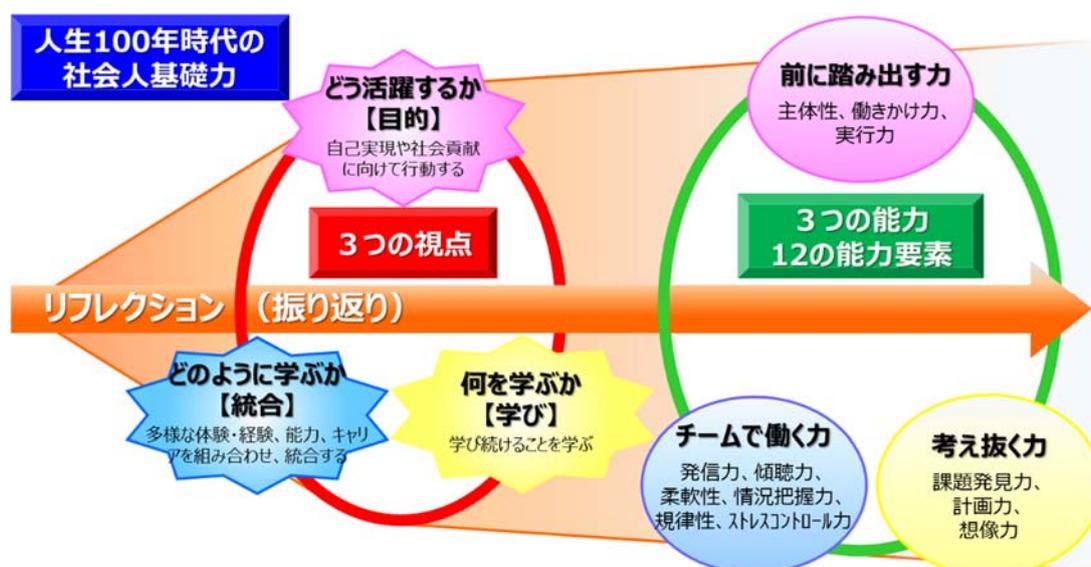
平成30年3月  
経済産業省  
中小企業庁

## (2) 「人生100年時代の社会人基礎力」とは

- ・ これまでの議論を踏まえ、「人生100年時代の社会人基礎力」は、これまで以上に長くなる個人の企業・組織・社会との関わりの中で、ライフステージの各段階で活躍し続けるための力として定義する。
- ・ 「人生100年時代の社会人基礎力」は、「社会人基礎力」の3つの能力/12の能力要素を内容としつつ、能力を発揮するにあたって、「学び（何を学ぶか）」、「統合（どのように学ぶか）」、「目的（どう活躍するか）」という3つの視点のバランスを図ることが、自らのキャリアを切りひらいていく上で必要と位置付ける。

## (3) 新たな3つの視点の位置づけ

- ・ 「学び（何を学ぶか）」とは、学び続けることを学ぶことであり、自らの強みを強化し弱みを補完して能力を発揮するための力として、「考え抜く力」がより一層重要となる。
- ・ 「統合（どのように学ぶか）」とは、自らの視野を広げて、自己の多様な体験・経験や能力と多様な人々の得意なものを組み合わせて、目的の実現に向けて統合することであり、持ち寄って価値を創出するために「考え抜く力」や「チームで働く力」がより一層重要となる。
- ・ 「目的（どう活躍するか）」とは、自己実現や社会貢献に向けて行動することであり、価値の創出に向けた行動を促すための力として、「前に踏み出す力」がより一層重要となる。
- ・ 「学び」、「統合」、「目的」の3つ視点のバランスを図り続けることにより、変化する社会の中における自らの立ち位置が常に相対化され、VUCA時代を生き抜くための「キャリア・オーナーシップ」を個々人が見定めることにつながる。



(出典) 経済産業省・中小企業庁「我が国産業における人材力強化に向けた研究会（人材力研究会）報告書」（平成30年3月）

2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン  
(答申)

平成 30 年 11 月 26 日  
中央教育審議会

## (大学をはじめとした高等教育と社会との関係)

大学は、教育と研究を一体不可分のものとして人材育成と研究活動を行っており、そのため組織が整備され、ガバナンスが機能し、資源配分が行われることで、「知識の共通基盤」として社会を支えている。その活動が、現在の社会を支え、また未来の社会を創出するために貢献していくことは重要であり、そのためには、教育と研究を通じた活動を社会に発信し、透明性確保と説明責任を果たしていくことが必要である。

「学問の自由 (Academic Freedom)」及び「大学の自治」とは、大学における学問の研究とその結果の発表及び教授が自由かつ民主的に行われることを保障するため、教育研究に関する大学の自主性を尊重する制度と慣行であり、国際的にも高等教育の根幹を支える概念となっている。つまり、憲法で保障されている「学問の自由」は大学と教員・研究者に蓄積された知識に基づいた研究と、その結果の発表と教授の自由であり、「大学の自治」は、これらの自由を保障するためのものである。教育研究の自由が保障されていることが、新しい「知」を生み出し、国力の源泉となる根幹を支えていることを再確認しておく必要がある。実際、我が国の研究論文の約7割を大学が占めており、また、例えばノーベル賞等の世界的な研究に関する賞の受賞者は大学の研究者が圧倒的な割合を占めている。これらは、学生と教員を擁している大学が、自由な発想をその源泉とし、教育研究を一体不可分のものとして人材育成と研究活動を行っているという仕組みに負うところが大きい。

その上で、高等教育は、我が国のみならず世界が抱える課題に教育と研究を通じて真摯に向き合い、新たな社会・経済システム等の提案をしていくこと、その成果を社会に還元することを通じて、社会からの評価と支援を得るという好循環を形成することにより、「知識の共通基盤」から更に進んで「知と人材の集積拠点」としての機能を継続的に発展させていくことが重要である。その際、知識集約型社会への転換によって、知や情報が経済的な価値の源泉となることで、知の拠点である大学そのものが産業を支える基盤になることが期待される。

そのためにも、高等教育システムそのもの、そして、高等教育機関の「建学の精神」や「ミッション」は時代の変化の中で、変わるべきものと変わらないものがあることを高等教育機関とその構成員が改めて意識し、高等教育機関自らが、「建学の精神」や「ミッション」、教育研究についての説明責任を果たしていくこと、さらにはその「強み」と「特色」を社会に分かりやすく発信していくことが重要である。

## (研究力の強化と社会との関係)

多様で卓越した新しい「知」は、未知のものへ挑戦する全ての学術研究の中で生み出され、第5期科学技術基本計画等で目指しているイノベーションの創出や科学技術の発展に大きく資するものであり、学術研究の成果を社会的・経済的価値の創造に結び付け、社会からのニ

ーズに忠実に従っていくことは高等教育の役割の一つである。他方、新興国が成長し先進諸国間でも国際競争が激しくなる中で、論文数や論文の引用状況から見た日本の地位は相対的に低下傾向にあり、日本の存在感が薄れてきている。大学の研究力を引き上げるとともに、先端的な研究を推進することにより、イノベーションを創出していくことが重要である。

また、高等教育機関における学術研究は、専門化・細分化された分野の中だけで収まらない学際的・学融合的な研究が進められるようになってきている。知識や技術の全てを個人や一つの組織で生み出すことが困難な時代になっており、新たな知識や価値の創出に多様な専門性を持つ人材が結集し、チームとして活動することの重要性がますます高まっている。学術研究の成果もまた、社会に還元することを通じて、社会からの評価と支援を得るという好循環を形成していくことが必要である。

なお、一概に研究といっても、その成果は多方面にわたる。科学技術との関連や、政策形成への貢献といった直接的な関係性の強いものだけではなく、例えば、社会発展や世界平和への貢献の基礎となる知見の集積や、個人の生活や内省につながる知的探求等は、本来、大学が担うべき重要な社会的な機能である。

### **(産業界との協力・連携)**

新卒一括採用や年功序列などのこれまでの雇用慣行を見直す動きが見え始めている中、これらの動きは、高等教育の変化の大きな後押しになる。通年採用導入による、ポテンシャル採用からジョブ型採用への転換や、大学教育の質と学修成果を活用した採用活動の拡大などは、産業界が取り組んでいくべき課題である。労働集約型経済から知識集約型経済への転換を真剣に考えていく際に、高等教育と産業界等との協力関係は欠かせない。経済・社会の発展をもたらす高等教育の在り方について、人材を育成する側と人材を活用する側で議論と理解を深めていく必要がある。

その際、今後更に重要性の増すリカレント教育については、知識の最新化や新たな知識を学ぶことのみならず、多様な学生が相互に学び合うことを実現するために、産業界の雇用の在り方、働き方改革と、高等教育が提供する学びのマッチングが必要不可欠である。また、大学内外の資源を有効活用していくことは重要であり、ガバナンスにおいても、教育研究を充実する際にも、学外の協力を得ていくための産業界等との協力関係、連携関係を充実していく必要がある。

さらに、大学と社会の接続を考える際には、学修者が自らを社会の一員として自覚し、自らの学びの社会的意味を理解し、学修の質を向上させる機会としての「インターンシップ」の充実等が求められる。また、学修者が複数の大学間や企業間、大学と企業の間などを行き来しながら、時間をかけて複線型にキャリアを形成していくことが可能となるためには、大

学と産業界共に今まで以上に流動性を高めていくことが重要である。これらの観点から、海外などで見られる大学での学修と企業での勤務を両立させるような学び方を検討することも必要<sup>14</sup>である。

### (地域との連携)

「個人の価値観を尊重する生活環境を提供できる社会」とは、各人が望む地域で、自らの価値観を大切に生活していくことができる社会であり、地域に住む人自らがその環境を維持し、その価値を創造していくものである。

人口減少下においてそのような社会を実現するためには、地方の産業における生産性の向上、高付加価値化のみならず、公共交通や教育機関、医療機関の提供、労働力の確保等、地域全体の維持・発展が必要である。そのいずれにおいても、高等教育が果たす役割は重要であり、知的な蓄積のある教員の存在や人材の育成、教育研究成果を活用した産学連携等により、地域の教育・医療・インフラ・防災・産業等を支えている。

また、高等教育機関、特に大学の自発的な研究機能は、教育機能とともに、地方創生にとって極めて重要な役割を担っている。それぞれの地域の社会、経済、文化の活性化のリソースや、特色・誇りの源泉であるとともに、地元産業や新規の企業立地における好条件となり、更には地域における国際交流の推進、国際化への対応への直接的な拠点ともなる。

なお、特にリカレント教育においては、介護福祉や保育等、地域特有のニーズも数多く存在し、地方公共団体と高等教育機関が、十分に連携して進める必要がある。

---

<sup>14</sup> 英国では、主に18～19歳の若者が企業で働きながら学位を取得できる制度(ディグリー・アプレントイスシップ=Degree Apprenticeships)を60以上の大学が企業と共同で設計し、目的意識を持って主体的に学ぶ学生を育成している。本制度は、2015年より現英国政権の重点施策となっており、学費の3分の2は政府が補助し、残りの3分の1は企業が拠出する。

概要

プロジェクト

公募情報

プロジェクト向け情報

お問い合わせ

[JST トップ](#) > [共創の場形成支援プログラム HOME](#) > 概要

### 概要

[プログラムの概要](#)

[プログラムの運営体制  
について](#)

### 共創の場既存プログラム

 COI STREAM

 OPERA

 リサコン

共創の場形成支援プログラム(以下、「本プログラム」という。)は、大学等が中心となって未来のありたい社会像(拠点ビジョン)を策定し、その実現に向けた研究開発を推進するとともに、プロジェクト終了後も、持続的に成果を創出する自立した産学官共創拠点の形成を目指す産学連携プログラムです。令和2年度より公募を開始しています。

JSTの既存の拠点形成型プログラムの1つである、センター・オブ・イノベーション(COI)プログラムがコンセプトとして掲げる「ビジョン主導・バックキャスト型研究開発」を基軸とした制度設計を行ったことから、本プログラムの愛称を「COI-NEXT」としています。

## プログラムの概要

知と人材の集積拠点である大学等のイノベーション創造への役割が増している中、これまでの改革により大学等のガバナンスとイノベーション創出力の強化が図られてきました。一方、今般の新型コロナウイルス感染症の影響下において、ウィズ/ポストコロナ時代の新しい社会像を世界中が模索する中、我が国ひいては世界が、現在及び将来直面する課題を新たな知とステークホルダーとの協働により解決して

### 関連リンク



# A-STEP

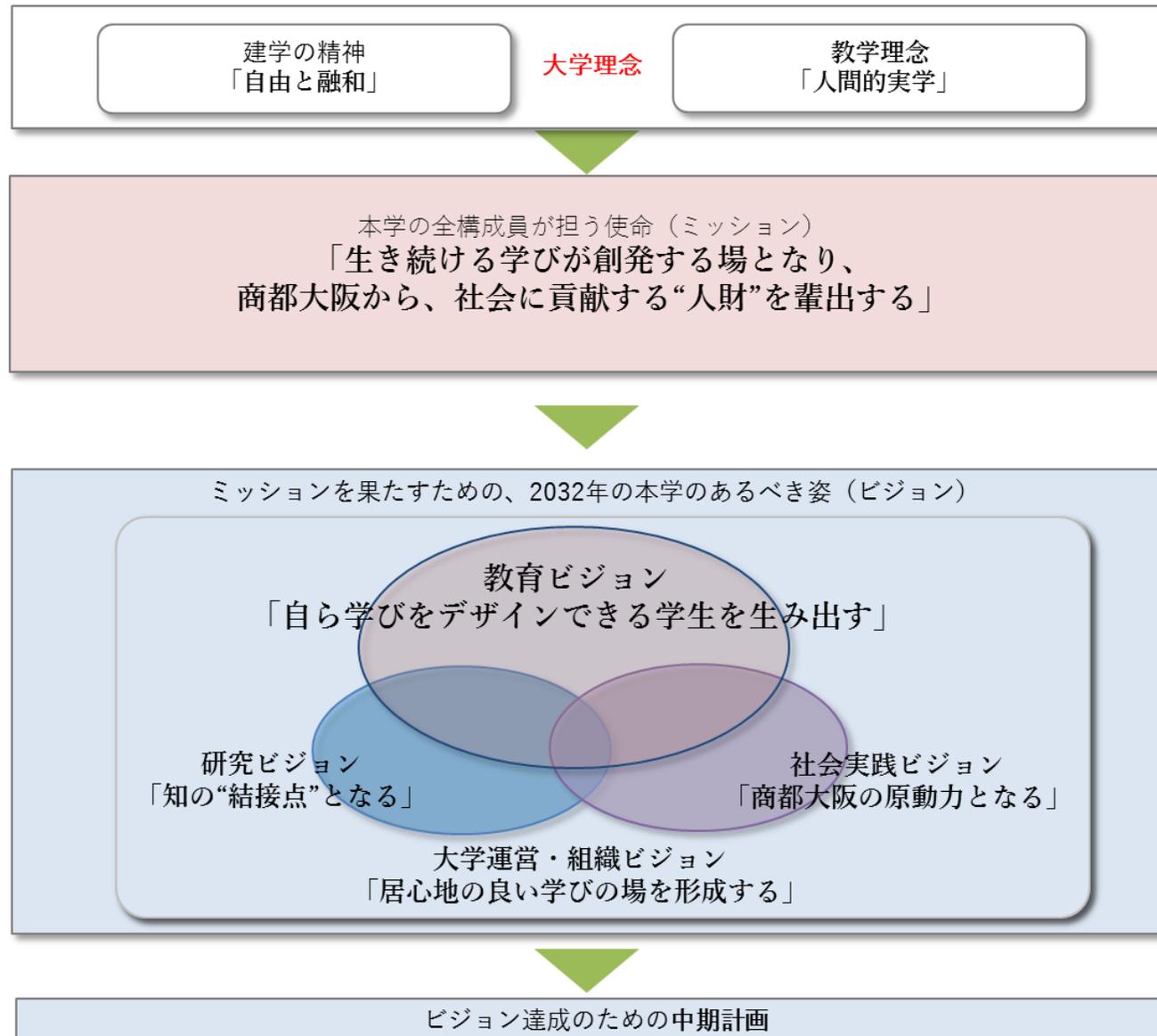


いくことが求められています。そのためには、国の重点的な支援のもと将来の不確実性や知識集約型社会に対応したイノベーション・エコシステムを「組織」対「組織」の産学官共創により構築することが必要です。

本プログラムでは、大学等を中心として、企業や地方自治体・市民等の多様なステークホルダーを巻き込んだ産学官共創により、ウィズ／ポストコロナ時代を見据えつつ、国連の持続可能な開発目標(SDGs)に基づく未来のありたい社会像を拠点ビジョン(地域共創分野では地域拠点ビジョンと呼称)として掲げ、その実現のため「バックキャストによるイノベーションに資する研究開発」とそれを支える「自立的・持続的な拠点形成が可能な産学官共創システムの構築」をパッケージで推進します。

これにより、大学等の強みや特色を活かしながら産学官の共創による拠点の形成を推進し、国の成長と地方創生に貢献するとともに、大学等が主導する知識集約型社会への変革を促進します。

(出典) 文部科学省科学技術・学術政策局産業連携・地域振興課「共創の場形成支援－共創の場形成支援プログラム」





Kansai Vision  
2030

資料24

# 「関西ビジョン2030」 概要版

(出典) 公益社団法人関西経済連合会「関西ビジョン2030」概要版(令和2年)



公益社団法人  
関西経済連合会

①

## アジアをはじめとする 世界との双方向のつながりの強化

- 「アジア・ビジネス創出プラットフォーム(ABCプラットフォーム)」推進
- 世界における交流拠点としての機能強化  
外国人視点での魅力向上・発信、インバウンドの復活・拡大に向けた先駆的な取り組み提案

③

## 道州制実現につながる 地方分権・広域行政の促進

- 関西広域連合の機能強化に向けた取り組み  
広域の視点で実施すべき施策に必要な権限・財源の大胆な移譲に向けた提案
- 道州制を含む分権・分散型社会に向けた働きかけ

⑤

## 多様な人材が能力を最大限発揮できる環境整備

- 活躍の場を求めるヒトを惹きつけ育むNo.1地域に向けた実践  
企業を舞台に活躍したいヒト（まずは女性・留学生）、  
様々な分野で世界に先駆けるヒト（起業家、トップアスリート、アカデミアなど）、  
一つの組織にとらわれない・雇用によらない働き方を選択するヒト
- 雇用の多様性と流動性の向上に向けた取り組み  
企業の雇用制度・大学教育のあり方、各法制度などに関する先駆的な課題提起

⑦

## プロジェクトDX in 関西

- 地域としてのDX推進の諸方策をとりまとめたブループリントの策定 ～「関西DX戦略2025(仮称)」～

②

## あっちこっち関西・イノベーションプロジェクト

- 企業や大学などの枠を超えた協業や研究開発の活性化につながるイノベーション・エコシステムの構築
- 関西各地におけるイノベーション創出や社会課題の解決に向けた多様な主体による混じり合い・協業を促す仕組みづくり

④

## 三方よしにもとづく 「民の力」を効果的に発揮する仕組みづくり

- 多様なステークホルダーを意識した新たな時代における企業が果たすべき役割のあり方を浸透させるための仕組みの提唱
- 行政などと企業の連携強化に向けた取り組み  
(テーマ例：地方の活性化や災害対応、エネルギー・環境問題、各社会課題など)

⑥

## 心身ともに健やかになる活力ある地域づくり

- 健康・医療分野におけるデータ利活用の推進
- スポーツ先進地域に向けた取り組み  
「する」「みる」「ささえる」スポーツの活性化、ワールドマスターズゲームズ2021関西のレガシーを創出・継承する仕組みづくり
- 文化の継承・発展に向けた取り組み、豊かな人生につながる学びの場の創出に向けた検討

# 資料編

**(大阪の将来像を導くにあたっての基礎資料)**

- 本資料は、「万博のインパクトを活かした大阪の将来像」を描くにあたって、有識者ワーキングでの議論の素材として作成したもの。
  
- 構成としては、「1、大阪の歴史」において、これまでの大阪の歩みを俯瞰したうえで、「2、歴史から導かれる大阪の特色」において、歴史から培われた特色を整理。そのうえで「3、現在の大阪の位置・ポテンシャル」で大阪の経済等の現状を分析。
  
- あわせて、「4、世界の都市」において、世界の都市論や各都市の発展モデルを分析し、「5、過去の国際博覧会等」において、これまでの万博から今後の万博、万博と地域・世界との関係の示唆を得るとともに、「6、今後の将来予測」を踏まえて、「万博のインパクトを活かした大阪の将来像」を導くアプローチ。

# 目 次

1 大阪の歴史	1	4 世界の都市	146
(1) 古代から戦前	2	(1) 世界の都市論の系譜	147
(2) 戦後から平成	7	(2) 世界の都市論における大阪の記述	150
		(3) シンクタンク等による大阪のポジション分析	151
2 歴史から導かれる大阪の特色	11	(4) 各都市の発展モデル	154
(1) 都市圏の形成過程	12	5 過去の国際博覧会等	164
(2) 海外とのつながり	17	(1) 国際博覧会の歴史	165
(3) 大阪の先駆性	19	(2) 1970年日本万国博覧会	166
(4) 気質・府民意識	23	(3) 1990年国際花と緑の博覧会	171
(5) 経済的地位の変化（大大阪時代～現在）	28	(4) 近年の国際博覧会（2000年以降～）	173
(6) 人口推移（古代～現在）	40	(5) 2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）	176
(7) 東京一極集中の要因	43		
3 現在の大阪の位置・ポテンシャル	50	6 今後の将来予測	178
(1) 経済	51	(1) SDG s と今後の将来予測	179
(2) 産業	58	(2) 世界の人口予測等から見えること	180
(3) 人口	67	(3) 世界の高齢化	191
(4) 暮らし	70	(4) 地球規模の環境問題	194
(5) 都市インフラ	95	(5) 日本、大阪の課題	200
(6) 国際化への対応	106	(6) 科学技術の進展	215
(7) SDG s からみた大阪	110		
(8) 大阪の特性・イメージ等	114		
(9) 大阪の強み・弱み	128		
(10) 府内各地域の状況	130		

### 3 現在の大阪の位置・ポテンシャル（9）大阪の強みと弱み

・これまでの「現在の大阪の位置・ポテンシャル」で述べてきた内容を中心に「強み・弱み」として整理。

#### 強み

##### ■ アジアを中心とする世界とのつながり

- ・近年、アジアを中心にインバウンドは大きく増加。直近の10年間でインバウンドは約7倍に増加（2018年：1142万人）
- ・主な輸出入先はアジア（全体の約6割程度のシェア）。大阪産業局では、アジア5地域（インド、インドネシア、タイ、ベトナム、ミャンマー）に大阪ビジネスサポートデスクを設置。

##### ■ バランスのとれた産業構造

- ・製造業からサービス業に経済の比重が移る中で、バランスの取れた産業構造は、今後の発展の強みとなるもの。

##### ■ ライフサイエンス分野の集積

- ・研究機関、大学等の集積（医薬基盤・健康栄養研究所、国立循環器病研究センター、大阪大学など）
- ・医薬品事業所数（全国2位）、医療機器事業所数（全国4位）
- ・特区制度を活用した医薬品・医療機器等の開発に向けた支援等の環境整備

##### ■ 新エネルギー産業の集積

- ・大阪・関西には、リチウムイオン電池等の生産拠点が多数立地。世界最大級の大型蓄電池システムの試験・評価施設が咲洲に開所。
- ・リチウムイオン電池の全国輸出金額における関西(2府4県)のシェアは70.1%(2019年)

##### ■ 大学等の集積

- ・東京に次ぐ大学の集積（55校（H28））
- ・大阪府立大学と大阪市立大学の統合に向けた取組み。

##### ■ 豊かな食文化、歴史的・文化的蓄積

- ・大阪の寺院数は、全国2位。また、大阪には国宝が62件（全国の約6%）、重要文化財が615件（全国の約5%）が存在。さらに百舌鳥・古市古墳群が世界遺産登録など、歴史的・文化的遺産が豊富。
- ・歴史的な資産にくわえ、伝統芸能、最新のエンターテインメント、豊かな食文化など多彩な都市魅力を有している。IRの立地に向けた取組を推進。

##### ■ 交通インフラの充実

- ・我が国初の完全24時間空港である関西国際空港や国際コンテナ戦略港湾に指定されている阪神港などの国際インフラを備えている。
- ・都心を中心に放射状に延びる鉄道網が整備されており、大阪市の駅密度は日本一高く、高密度な鉄道網を有している。

##### ■ 災害対応力

- ・阪神・淡路大震災や大阪北部地震、台風等の災害の教訓。南海トラフ等地震に対する防潮堤の液状化や水門耐震など対策を2023年度までに実施。

##### ■ 海外からの留学生

- ・高等教育機関受入の留学生数は全国2位。近年、ベトナムからの留学生を中心に増加。

##### ■ 気質・府民意識

- ・寛容性に富み、進取の気質を持つ。歴史的に社会貢献の精神も持つ。

### 3 現在の大阪の位置・ポテンシャル（9）大阪の強みと弱み

#### 弱み

##### □東京一極集中

- ・飛行機や新幹線による東京への大幅な移動時間の短縮や、グローバル化の進展などによって東京への一極集中が進んだ。  
→人口流出に加え、本社機能、企業の研究開発機能、主要メディア等の情報発信機、文化創造活動等

##### □さらなるイノベーションの促進

- ・国際特許出願件数が、東京に次いで全国2番目であるが、東京とは出願件数に大きな開き。経年で見ても伸び悩んでいる状況。
- ・府内企業の研究開発に係る投資は弱含み。

##### □女性、高齢者、障がい者の低い就業率

- ・女性や高齢者の就業率は、近年上昇しているものの、依然として、全国平均を下回っている状況。
- ・障がい者雇用については、法定雇用率達成企業の割合は増加しているものの、全国平均を下回る状況。障がい者実雇用率も同様の状況。

##### □非正規労働者の割合や可処分所得の減少

- ・非正規の全体の割合は、3割を超えており、全国によりも高い状況。
- ・府民一人あたりの雇用者報酬は、全国的に高い位置にあるが、一人あたりの府民所得をみると、全国7～9位で推移しているが、近年、一人あたりの可処分所得は減少傾向。

##### □平均寿命と健康寿命

- ・平均寿命、健康寿命ともに、男女ともに全国平均を下回る状況。

##### □教育の充実

- ・「全国学力・学習状況調査」の結果については、改善傾向にあるものの、依然として全国平均を下回っている教科がある状況。

##### □治安

- ・全刑法犯の認知件数は過去最多であった平成13年から着実に減少しているものの、人口10万人当たりの認知件数では依然として全国ワースト1

##### □インフラの老朽化、空家の増加、密集市街地

- ・高度経済成長期以降に整備された老朽化の進んだインフラが増加。
- ・過去20年間で、空家率が約1.2倍に増加（2018年：15.2%）
- ・「地震時等に著しく危険な密集市街地」が全国最大規模

##### □都市におけるみどり不足

- ・大阪府の人口1人あたりの都市公園面積（5.8㎡/人）は全国最下位。これは世界の大都市（ロンドン、パリ、ニューヨーク）の半分以下。

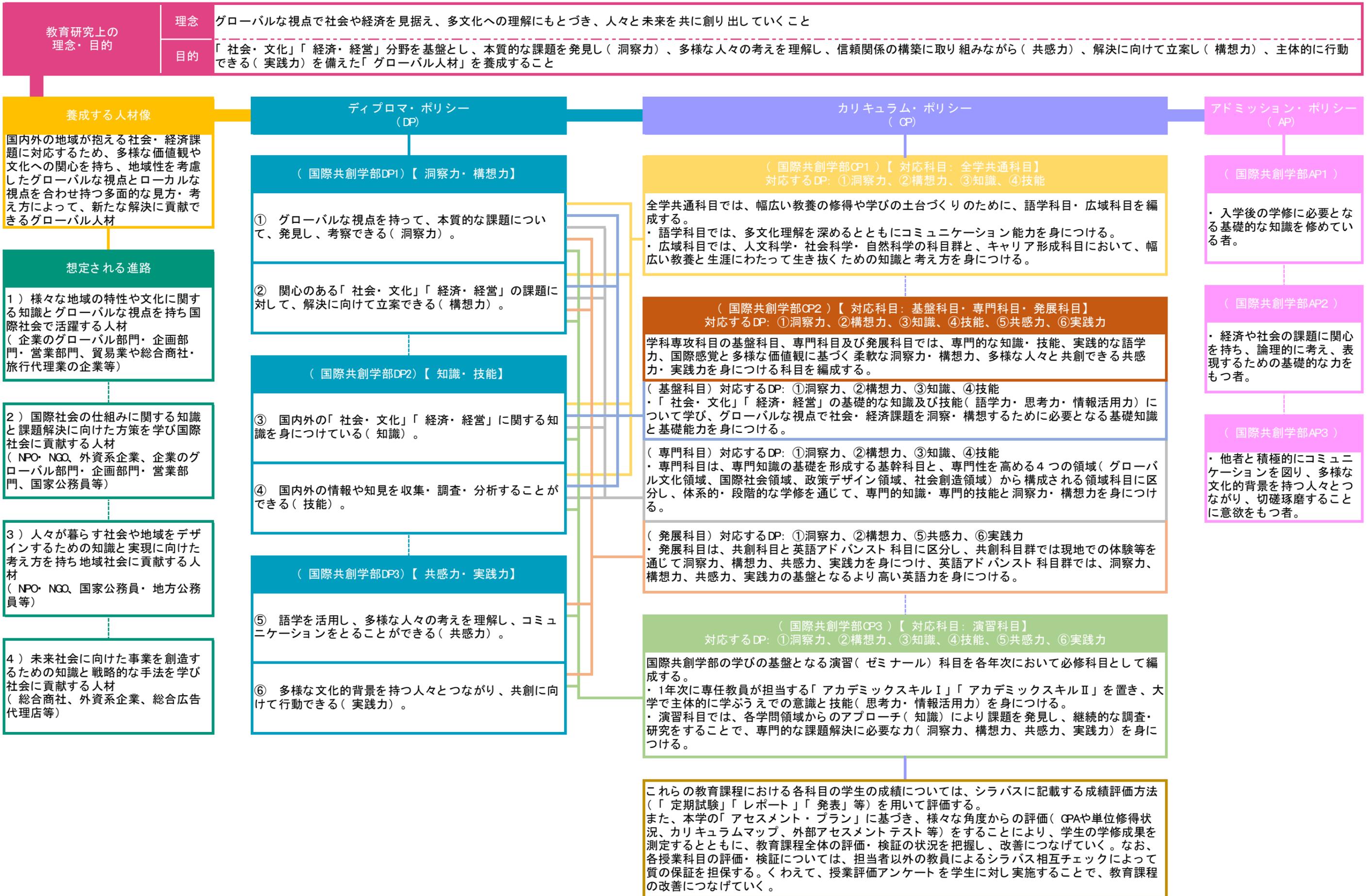
##### □国際化への対応（国際会議、外国人の受入環境）

- ・外国人と地域住民がともに暮らし、支え合う共生社会づくりが求められている。
- ・新たな在留資格「特定技能」では、今後5年間で、全国で最大345,150人（府は2万人程度(試算)）の受入れ見込み。円滑な受入に向けた取組が必要。
- ・国際会議については、東京や福岡、京都を下回っている状況、G20大阪サミットの開催を契機に、今後の国際会議の増加が期待される。

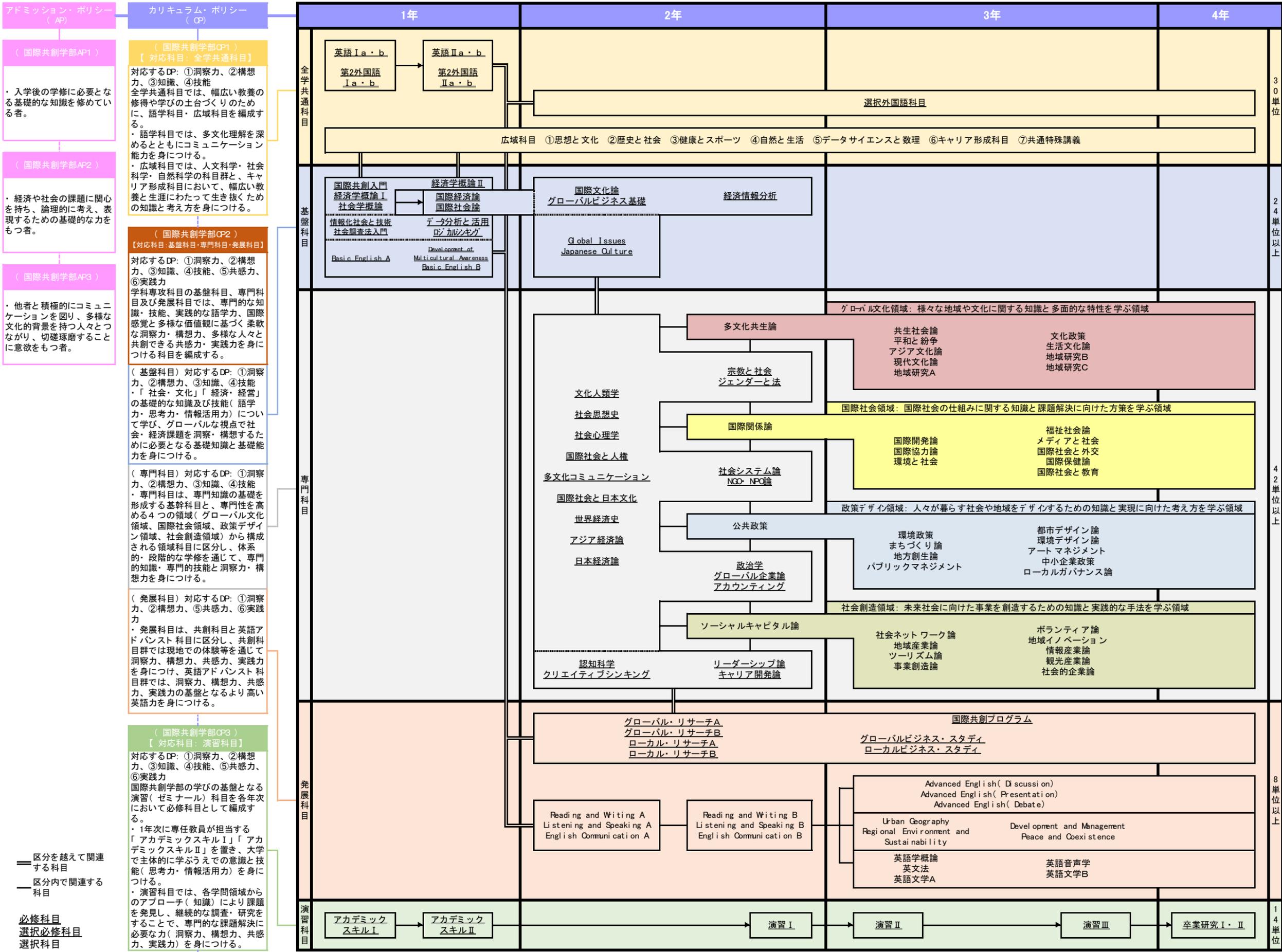
##### □大阪のイメージ

- ・大阪のイメージは、「治安が悪い」、「まちが汚い、ごみごみしている」といったイメージ

国際共創学部カリキュラム概念図(教育研究上の理念・目的、養成する人材像ならびに3ポリシーの関係図)



# 国際共創学部カリキュラム概念図(3ポリシーと教育課程の関係図)



これらの教育課程における各科目の学生の成績については、シラバスに記載する成績評価方法(「定期試験」「レポート」「発表」等)を用いて評価する。また、本学の「アセスメント・プラン」に基づき、様々な角度からの評価(CPAや単位修得状況、カリキュラムマップ、外部アセスメントテスト等)をすることにより、学生の学修成果を測定するとともに、教育課程全体の評価・検証の状況を把握し、改善につなげていく。なお、各授業科目の評価・検証については、担当者以外の教員によるシラバス相互チェックによって質の保証を担保する。くわえて、授業評価アンケートを学生に対し実施することで、教育課程の改善につなげていく。

# 国際共創学部カリキュラムマップ

## 資料27

カリキュラム・ポリシー (CP)		ディプロマ・ポリシー (DP)						
		①洞察力	②構想力	③知識	④技能	⑤共感力	⑥実践力	
(国際共創学部CP1)【対応科目:全学共通科目】 対応するDP:①洞察力、②構想力、③知識、④技能 全学共通科目では、幅広い教養の修得や学びの土台づくりのために、語学科目・広域科目を編成する。 ・語学科目では、多文化理解を深めるとともにコミュニケーション能力を身につける。 ・広域科目では、人文科学・社会科学・自然科学の科目群と、キャリア形成科目において、幅広い教養と生涯にわたって生き抜くための知識と考え方を身につける。		全学共通科目	○	○	○	○		
(国際共創学部CP2)【対応科目:基盤科目・専門科目・発展科目】 対応するDP:①洞察力、②構想力、③知識、④技能、⑤共感力、⑥実践力 学科専攻科目の基盤科目、専門科目及び発展科目では、専門的な知識・技能、実践的な語学力、国際感覚と多様な価値観に基づく柔軟な洞察力・構想力、多様な人々と共創できる共感力・実践力を身につける科目を編成する。	(基盤科目)対応するDP:①洞察力、②構想力、③知識、④技能 ・「社会・文化」「経済・経営」の基礎的な知識及び技能(語学力・思考力・情報活用力)について学び、グローバルな視点で社会・経済課題を洞察・構想するために必要となる基礎知識と基礎能力を身につける。	基盤科目	○	○	○	○		
	(専門科目)対応するDP:①洞察力、②構想力、③知識、④技能 ・専門科目は、専門知識の基礎を形成する基幹科目と、専門性を高める4つの領域(グローバル文化領域、国際社会領域、政策デザイン領域、社会創造領域)から構成される領域科目に区分し、体系的・段階的な学修を通じて、専門的知識・専門的技能和洞察力・構想力を身につける。	専門科目	○	○	○	○		
	(発展科目)対応するDP:①洞察力、②構想力、⑤共感力、⑥実践力 ・発展科目は、共創科目と英語アドバンスト科目に区分し、共創科目群では現地での体験等を通じて洞察力、構想力、共感力、実践力を身につけ、英語アドバンスト科目群では、洞察力、構想力、共感力、実践力の基盤となるより高い英語力を身につける。	発展科目	○	○			○	○
(国際共創学部CP3)【対応科目:演習科目】 対応するDP:①洞察力、②構想力、③知識、④技能、⑤共感力、⑥実践力 国際共創学部の学びの基盤となる演習(ゼミナール)科目を各年次において必修科目として編成する。 ・1年次に専任教員が担当する「アカデミックスキルⅠ」「アカデミックスキルⅡ」を置き、大学で主体的に学ぶうえでの意識と技能(思考力・情報活用力)を身につける。 ・演習科目では、各学問領域からのアプローチ(知識)により課題を発見し、継続的な調査・研究をすることで、専門的な課題解決に必要な力(洞察力、構想力、共感力、実践力)を身につける。		演習科目	○	○	○	○	○	○

これらの教育課程における各科目の学生の成績については、シラバスに記載する成績評価方法(「定期試験」「レポート」「発表」等)を用いて評価する。また、本学の「アセスメント・プラン」に基づき、様々な角度からの評価(GPAや単位修得状況、カリキュラムマップ、外部アセスメントテスト等)をすることにより、学生の学修成果を測定するとともに、教育課程全体の評価・検証の状況を把握し、改善につなげていく。なお、各授業科目の評価・検証については、担当者以外の教員によるシラバス相互チェックによって質の保証を担保する。くわえて、授業評価アンケートを学生に対し実施することで、教育課程の改善につなげていく。

## 【履修モデル1】 様々な地域の特性や文化に関する知識とグローバルな視点を持ち国際社会で活躍する人材

科目区分	授業科目の名称	配当年次								総単位数		
		1年		2年		3年		4年				
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
全学共通科目	外国語科目	英語 I a[R&W]	1								10	30
		英語 I b[L&S]	1									
		第二外国語科目 I a	1									
		第二外国語科目 I b	1									
		英語 II a[R&W]		1								
		英語 II b[L&S]		1								
		第二外国語科目 II a		1								
		第二外国語科目 II b		1								
		ビジネス英語 II				2						
	広域科目	哲学入門	2								20	
		歴史学入門	2									
		地理学入門	2									
		現代と宗教		2								
		健康増進の理論		2								
		人文地理学				2						
		ヨーロッパの歴史				2						
		民俗学				2						
		データサイエンス概論						2				
		インターンシップ						2				
基盤科目	入門科目	国際共創入門	2							18		
		経済学概論 I	2									
		社会学概論	2									
		情報化社会と技術、または、社会調査法入門	2									
		Basic English A	2									
		経済学概論 II		2								
		データ分析と活用、または、ロジカルシンキング		2								
		Development of Multicultural Awareness		2								
	基礎科目	国際経済論		2						10		
		国際社会論		2								
		国際文化論			2							
		経済情報分析				2						
		Global Issues、または、Japanese Culture			2							
		Basic English B		2								
専門科目	基幹科目	文化人類学			2					18		
		社会思想史			2							
		国際社会と人権			2							
		多文化コミュニケーション			2							
		国際社会と日本文化			2							
		世界経済史			2							
		日本経済論			2							
		認知科学			2							
	領域科目	ジェンダーと法				2				24		
		多文化共生論				2						
		国際関係論				2						
		平和と紛争					2					
		アジア文化論					2					
		現代文化論					2					
		地域研究A					2					
		国際協力論					2					
		環境政策					2					
		文化政策						2				
		生活文化論						2				
		地域研究B、または、地域研究C						2				
		メディアと社会						2				
		発展科目	共創科目	グローバル・リサーチB			2					6
国際共創プログラム						2						
ローカル・ビジネススタディ						2						
英語アドバンスト科目	Listening and Speaking B				2			4				
	Peace and Coexistence						2					
演習科目	アカデミックスキル I	2						14				
	アカデミックスキル II		2									
	演習 I				2							
	演習 II					2						
	演習 III						2					
	卒業研究 I						2					
	卒業研究 II								2			
履修合計単位数		22	22	22	20	22	12	2	2	124		

【履修モデル2】 国際社会の仕組みに関する知識と課題解決に向けた方策を学び国際社会に貢献する人材

科目区分	授業科目の名称	配当年次								総単位数			
		1年		2年		3年		4年					
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
全学共通科目	外国語科目	英語 I a[R&W]	1									10	30
		英語 I b[L&S]	1										
		第二外国語科目 I a	1										
		第二外国語科目 I b	1										
		英語 II a[R&W]		1									
		英語 II b[L&S]		1									
		第二外国語科目 II a		1									
		第二外国語科目 II b		1									
		ビジネス英語 II			2								
	広域科目	地理学入門	2									20	
		データサイエンス概論	2										
		現代と哲学		2									
		現代の倫理		2									
		アジアの歴史			2								
		現代の政治			2								
		ヨーロッパの歴史				2							
		現代の法				2							
		健康増進の理論				2							
		インターンシップ					2						
基盤科目	入門科目	国際共創入門	2								18	94	
		経済学概論 I	2										
		社会学概論	2										
		情報化社会と技術、または、社会調査法入門	2										
		Basic English A	2										
		経済学概論 II		2									
		データ分析と活用、または、ロジカルシンキング		2									
		Development of Multicultural Awareness		2									
	基礎科目	国際経済論		2							10		
		国際社会論		2									
		国際文化論			2								
		経済情報分析				2							
		Global Issues、または、Japanese Culture			2								
		Basic English B		2									
専門科目	基幹科目	文化人類学			2						18		
		社会心理学			2								
		国際社会と人権			2								
		多文化コミュニケーション			2								
		世界経済史			2								
		アジア経済論			2								
		政治学				2							
		グローバル企業論				2							
	領域科目	リーダーシップ論				2					24		
		国際関係論					2						
		共生社会論					2						
		平和と紛争					2						
		国際開発論					2						
		国際協力論					2						
		環境と社会					2						
		社会ネットワーク論					2						
		文化政策						2					
		メディアと社会						2					
		国際社会と外交						2					
		国際保健論						2					
		国際社会と教育						2					
		発展科目	共創科目	グローバル・リサーチA			2						6
				国際共創プログラム					2				
				ローカルビジネス・スタディ					2				
英語アドバンスト科目	English Communication B Development and Management					2			2	4			
演習科目	アカデミックスキル I	2								14			
	アカデミックスキル II		2										
	演習 I				2								
	演習 II					2							
	演習 III						2						
	卒業研究 I							2					
卒業研究 II								2					
履修合計単位数		20	22	22	22	20	14	2	2	124			

【履修モデル3】 人々が暮らす社会や地域をデザインするための知識と実現に向けた考え方をもち地域社会に貢献する人材

科目区分	授業科目の名称	配当年次								総単位数		
		1年		2年		3年		4年				
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
全学共通科目	外国語科目	英語 I a[R&W]	1								10	30
		英語 I b[L&S]	1									
		第二外国語科目 I a	1									
		第二外国語科目 I b	1									
		英語 II a[R&W]		1								
		英語 II b[L&S]		1								
		第二外国語科目 II a		1								
		第二外国語科目 II b		1								
		ビジネス英語 I			2							
	広域科目	哲学入門	2								20	
		教育学入門	2									
		歴史学入門	2									
		現代の心理学		2								
		データサイエンス概論		2								
		自然地理学			2							
		現代の法			2							
		現代の倫理				2						
		健康増進の理論				2						
		インターンシップ					2					
基盤科目	入門科目	国際共創入門	2							18		
		経済学概論 I	2									
		社会学概論	2									
		情報化社会と技術、または、社会調査法入門	2									
		Basic English A	2									
		経済学概論 II		2								
		データ分析と活用、または、ロジカルシンキング		2								
		Development of Multicultural Awareness		2								
	基礎科目	国際経済論		2						10		
		国際社会論		2								
		グローバルビジネス基礎			2							
		経済情報分析				2						
		Global Issues、または、Japanese Culture			2							
		Basic English B		2								
専門科目	基幹科目	社会思想史			2					18		
		国際社会と人権			2							
		日本経済論			2							
		クリエイティブシンキング			2							
		社会システム論				2						
		ジェンダーと法				2						
		政治学				2						
		アカウンティング				2						
	領域科目	NGO・NPO論				2				24		
		公共政策				2						
		ソーシャルキャピタル論				2						
		環境政策					2					
		まちづくり論					2					
		地方創生論					2					
		パブリックマネジメント					2					
		都市デザイン論						2				
		環境デザイン論						2				
		アートマネジメント						2				
		中小企業政策						2				
		ローカルガバナンス論						2				
地域イノベーション						2						
発展科目	共創科目	ローカル・リサーチA			2				6			
		国際共創プログラム				2						
		ローカルビジネス・スタディ				2						
	英語アドバンスト科目	English Communication A			2				4			
Regional Environment and Sustainability						2						
演習科目	アカデミックスキル I	2							14			
	アカデミックスキル II		2									
	演習 I				2							
	演習 II					2						
	演習 III						2					
	卒業研究 I							2				
	卒業研究 II							2				
履修合計単位数		22	22	22	22	18	14	2	2	124		

【履修モデル4】 未来社会に向けた事業を創造するための知識と戦略的な手法を学び社会に貢献する人材

科目区分	授業科目の名称	配当年次								総単位数		
		1年		2年		3年		4年				
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
全学共通科目	外国語科目	英語 I a[R&W]	1								10	30
		英語 I b[L&S]	1									
		第二外国語科目 I a	1									
		第二外国語科目 I b	1									
		英語 II a[R&W]		1								
		英語 II b[L&S]		1								
		第二外国語科目 II a		1								
		第二外国語科目 II b		1								
		ビジネス英語 I			2							
	広域科目	心理学入門	2								20	
		経営学入門	2									
		現代のビジネス		2								
		現代と統計		2								
		人文地理学			2							
		自然地理学			2							
		データサイエンス概論			2							
		大阪の経済と文化				2						
		健康増進の理論				2						
		インターンシップ					2					
基盤科目	入門科目	国際共創入門	2							18		
		経済学概論 I	2									
		社会学概論	2									
		情報化社会と技術、または、社会調査法入門	2									
		Basic English A	2									
		経済学概論 II		2								
		データ分析と活用、または、ロジカルシンキング		2								
		Development of Multicultural Awareness		2								
	基礎科目	国際経済論		2						10		
		国際社会論		2								
		グローバルビジネス基礎			2							
		経済情報分析				2						
		Global Issues、または、Japanese Culture			2							
		Basic English B		2								
専門科目	基幹科目	社会心理学			2					18		
		世界経済史			2							
		アジア経済論			2							
		日本経済論			2							
		社会システム論				2						
		グローバル企業論				2						
		アカウンティング				2						
		NGO・NPO論				2						
	領域科目	キャリア開発論				2				24		
		ソーシャルキャピタル論				2						
		地方創生論					2					
		社会ネットワーク論					2					
		地域産業論					2					
		ツーリズム論					2					
		事業創造論					2					
		都市デザイン論						2				
		ボランティア論						2				
		地域イノベーション						2				
発展科目	共創科目	ローカル・リサーチB			2				6			
		国際共創プログラム				2						
		グローバルビジネス・スタディ				2						
	英語アドバンス科目	Listening and Speaking B				2			4			
演習科目	Urban Geography					2			14			
	アカデミックスキル I	2										
	アカデミックスキル II		2									
	演習 I			2								
	演習 II				2							
	演習 III					2						
	卒業研究 I						2					
卒業研究 II							2					
履修合計単位数		20	22	22	22	20	14	2	2	124		

## 成績評価基準等に関する規程

2020年11月13日制定

## (趣旨)

第1条 この規程は、大阪経済大学学則第18条に定める成績に係る評価基準等について必要な事項を定める。

## (成績評価基準)

第2条 成績評価基準は下表のとおりとし、評価点に対応する合否、評価およびGPを定める。

2 GP (Grade Point) とは、評価点に対し付与された等級を表す数値をいう。

合否	評価	GP	評価点	評価基準
合格	優	4	90-100	到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をあげている
		3	80-89	到達目標を十分に達成している
	良	2	70-79	到達目標を概ね達成している
	可	1	60-69	到達目標を最低限達成している
不合格	不可	0	0-59	到達目標を達成していない

## (GPA 制度)

第3条 学生の学修意欲を高めるとともに客観的な成績評価、履修指導および学生支援への活用を行うことを目的として、GPA 制度を設ける。

2 GPA (Grade Point Average) とは、下の計算式のとおり、各科目に設定された単位数に当該科目の成績に応じた GP を乗じ、これらの総和を履修単位数の合計で除して得られる数値をいう。

$$GPA = \frac{(\text{履修した授業科目の単位数} \times \text{授業科目の GP}) \text{の総和}}{\text{履修した授業科目の単位数の合計}}$$

3 学期 GPA とは、学期毎に算出される GPA をいう。

4 通算 GPA とは、在学中の全学期を通じて算出される GPA をいう。

## (GPA 対象科目)

第4条 GP および GPA 算出の対象科目は、本学在学中に履修した全ての科目を対象とする。

2 前項の規定に関わらず、以下の授業科目については、対象から除くものとする。

- (1) 大阪経済大学学則第11条の2による認定科目
- (2) 大阪経済大学学則第11条の3による認定科目
- (3) 大阪経済大学学則第11条の4による認定科目
- (4) 大阪経済大学学則第10条(8)に定める教育職員養成課程科目、自由履修科目
- (5) その他、学部等が別に定める科目

## (改廃)

第5条 この規程の改廃は、教務会議および教授会の意見を聴いて、学長が行う。

## 附則

1 この規程は、2020年11月13日に制定し、同日から施行する。

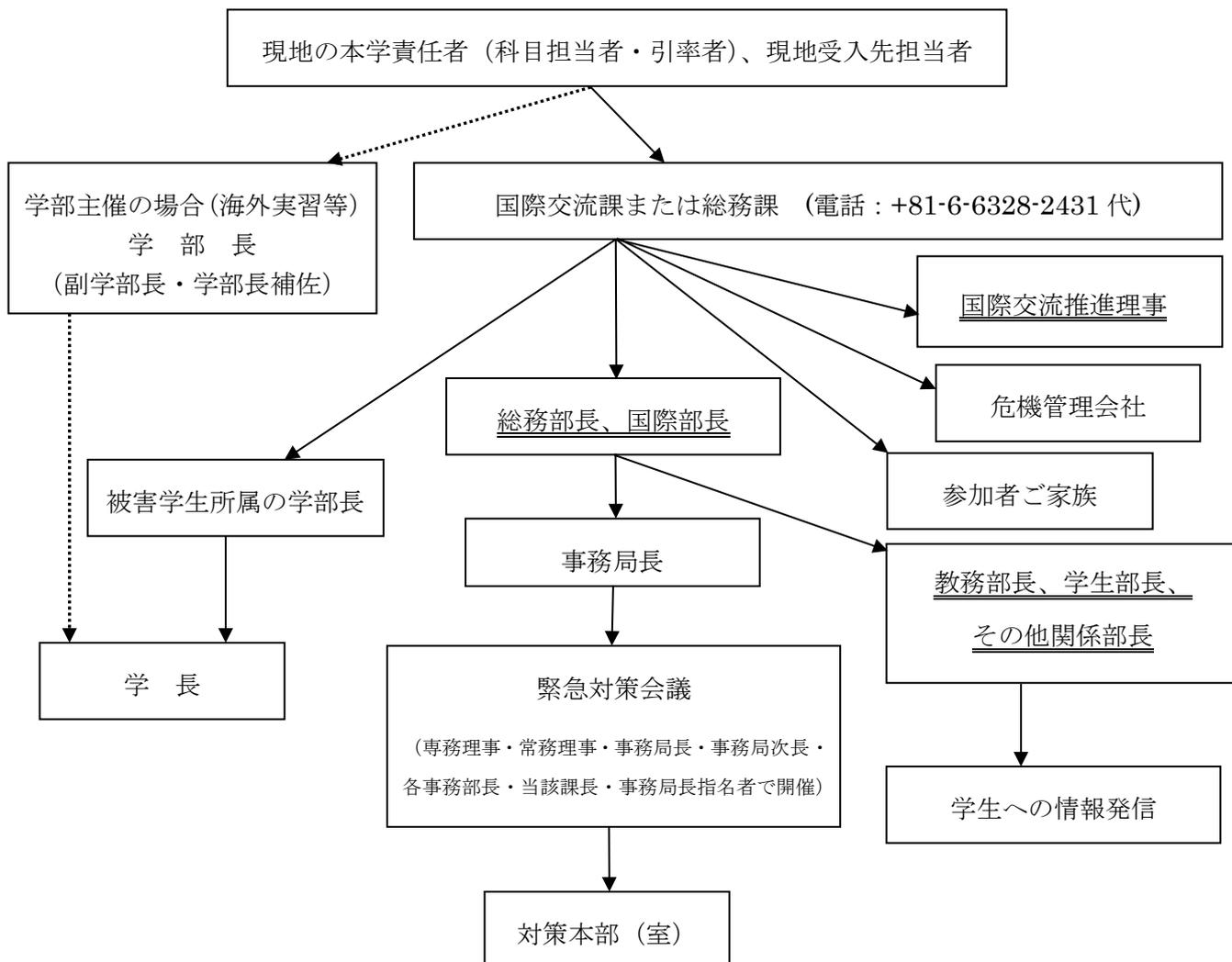
大阪経済大学  
海外派遣  
緊急重大事故対応マニュアル

1. 緊急時の学内連絡体制について……………	1
2. 「危機管理支援システム」について……………	2
3. 緊急重大事故発生時の初動ワークフロー	
(1) 初動期の流れ～事故第一報から対策本部設置まで～……………	3
(2) 現地出発までの諸準備……………	4
(3) 先発現地派遣教職員の業務……………	5
(4) ご家族の現地到着から帰国まで……………	6
4. 事故発生直後の必要作業	
(1) 事故発生から3時間……………	7
(2) 事故発生から6時間……………	8
(3) 事故発生初日終了までの必要作業……………	9
5. 対策本部……………	10
6. ご家族（学生留守宅）担当……………	11
7. 現地担当……………	13
8. マスコミ担当……………	16
9. 情報収集・関係官庁担当……………	18
10. 手配・渉外担当……………	19
11. 総務・経理担当……………	22

\*本マニュアルは、大阪経済大学、危機管理委員会（事務局：総務部総務課）作成の「危機管理マニュアル」に基づき作成されたものである。

## 1. 緊急時の学内連絡体制について

(1) 正規留学（派遣・認定）、語学研修、海外実習その他本学主催の海外プログラムの実施にあたり、緊急時の連絡は以下の順序で行なう。



(海外研修等引率者の皆様へ)

海外研修中に万が一緊急事態が発生した場合・・・

まず大学【国際交流課または総務課】に電話連絡をしてください。

**+81-6-6328-2431(代) +81-6-6328-2138(夜間・休日)**

(2) 関係者連絡の後、被害状況に応じて協議を行なう。

状況に応じて対策本部（事務局：総務課）を設置する。

<海外緊急事故支援システム24時間ヘルプデスク>

**0120-373-916**

**現地の担当者は、まず、大学に連絡する。**

**対策本部または国際交流課が、危機管理会社のヘルプデスクに連絡する。**

Development of Multicultural Awareness(ハワイ大学マノア校)実習プログラム案

日数	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目
内容 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オリエンテーション</li> <li>・ プレースメント テスト (習熟度確認テスト)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受講クラス割り当て</li> <li>・ クラス登録</li> <li>・ 授業開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語授業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ハワイ大学の学生との英語授業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語授業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 休み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 休み</li> </ul>
日数	8日目	9日目	10日目	11日目	12日目	13日目	14日目
内容 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校外学習 (ハワイ文化体験)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語授業</li> <li>・ ハワイアンフラ体験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ハワイ大学の学生との英語授業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語授業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ハワイ大学の学生との英語授業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 休み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 休み</li> </ul>
日数	15日目	16日目	17日目	18日目	19日目		
内容 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校外学習 (ハワイ文化体験)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ハワイ大学の学生との英語授業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語授業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ハワイ大学の学生との英語授業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 卒業セレモニー</li> </ul>		

【資料 32 acceptance letter for OUE (ハワイ大学マノア校)】(省略)

グローバル・リサーチA(アメリカ:ポートランド他)実習プログラム案

日数	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目
<b>内容 (予定)</b>	<p>&lt;シリコンバレー&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オリエンテーション</li> <li>・ 講義「起業とチャレンジ」</li> <li>・ 講義「米国で日本人が働く事例紹介」</li> <li>・ Google本社等見学</li> <li>・ 研修の振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義「日米における大学、企業の比較」</li> <li>・ 講義「経営者による起業の事例紹介」</li> <li>・ 講義「エコシステムとネットワーク」</li> <li>・ フィールドリサーチ</li> <li>・ 研修の振り返り</li> </ul>	<p>&lt;サンフランシスコ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ JETROサンフランシスコ訪問</li> <li>・ サンフランシスコ市内散策 (SalesForceセンターJapan Town、フィッシャーマンズワーフ等)</li> <li>・ 研修の振り返り、グループ報告、交流会</li> </ul>	<p>&lt;ポートランド&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義「米国経済の現状と課題」</li> <li>・ 講義「ポートランドにおける地域コミュニティ」</li> <li>・ フィールドリサーチ</li> <li>・ 研修の振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ フィールドリサーチ</li> <li>・ 米国大学生との交流(国際言語学部日本語専攻学生とのディスカッション)</li> <li>・ グループワーク</li> <li>・ 交流会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ フィールドリサーチ</li> <li>・ 成果発表会資料作成</li> <li>・ 成果発表会(質疑応答、フィードバック)</li> <li>・ 交流会</li> </ul>

グローバル・リサーチB(タイ:バンコク)実習プログラム案

日数	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目
内容 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オリエンテーション</li> <li>・ 講義「タイ人の思想とタイ国内事情について」</li> <li>・ 泰日工業大学の学生との日本語交流会</li> <li>・ 歓迎会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義「タイ企業の経営（日本との比較）」</li> <li>・ 講義「タイにおける日系企業」</li> <li>・ タイ語授業（入門編）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市場調査オリエンテーション</li> <li>・ 市場調査（日系企業等訪問予定）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 泰日工業大学の学生とのグループディスカッション</li> <li>・ 市場調査に関する発表会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日系企業工場視察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水上マーケット等見学</li> <li>・ 寺院・遺跡見学等</li> <li>・ 報告会資料作成等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 報告会資料作成等</li> </ul>
日数	8日目	<div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>					
内容 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 報告会</li> <li>・ 終了式</li> <li>・ フェアウェルパーティ</li> </ul>						

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目
午前	オリエンテーション 事前学修の振り返り	講演会 【松江市の市民団体】 グループ発表 ・事前学修を踏まえ地域課題を検討する	フィールドワーク 企業訪問 【出雲市の企業】 ・地域企業との交流 ・出雲市の現状と課題について学ぶ	フィールドワーク 企業訪問 【大田市の企業】 ・地域企業との交流 ・現状と課題について知る	ワークショップ ・学修の振り返り ・現状と課題のまとめ ・解決手法の提案 ・発表資料準備	フィールドワークの振り返りと感想のまとめ
午後	フィールドワーク 【島根県庁】 島根創生計画について学修 文化体験	フィールドワーク 企業訪問 【松江市の企業】 ・島根や松江の現状と課題について学ぶ	文化体験 【出雲民芸館】	ワークショップ ・課題の検討 ・解決策のまとめ	成果発表会 ・問題解決の提案 ・質疑応答 ・講評（島根県職員）	
夜	交流会 地元大学生との交流	振り返り	振り返り	振り返り	交流会	
備考	大阪→松江 松江泊	松江泊	出雲、大田 大田泊	大田泊	大田泊	大田→大阪

目的	事前学修	事後学習
本講義では、フィールドワークを通じて、島根県の地域企業や社会的事業に関わる人々や、現地の大学生との関係を構築しながら、地域の現状や課題を自分の目で見て理解し、人々と交流しながら地域課題の解決手法を検討し、共感力と実践力を身に付けていくことを目的としている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワークの進め方や意義について学ぶ</li> <li>・島根県についてのガイダンスを実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワークとグループワークの振り返り</li> <li>・講評</li> <li>・今後の学修への活用について説明</li> </ul>

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目
午前	オリエンテーション 事前学修の振り返り	フィールドワーク 企業訪問 【高知県の企業】 ・高知の企業の現状と課題について理解する	フィールドワーク 【黒潮町】 ・地元高校生と交流し ・黒潮町の課題を振り返り 解決に受けた提案を考察する	ワークショップ ・学修の振り返り ・現状と課題のまとめ ・解決手法の提案 ・発表資料準備	ワークショップ ・現地の学修の振り返り ・高知県の地域課題の解決手法の提案 ・発表資料準備	フィールドワーク ・観光施設を防災視点で訪問
午後	フィールドワーク 【高知県庁】 ・高知県の産業政策、観光政策、防災計画について学修	フィールドワーク 【黒潮町】 ・黒潮町の概要、課題等を学ぶ ・事前学修を踏まえ地域課題を考察する	フィールドワーク ・防災タワー、防災食品工場の見学 ・学びを振り返り、解決策に向けた検討を進める	成果発表会 ・問題解決の提案 ・質疑応答 ・講評（黒潮町職員）	成果発表会 ・行政、企業への問題解決の提案 ・質疑応答 ・講評（県・市職員、企業）	フィールドワークの振り返りと感想のまとめ
夜	交流会	振り返り	振り返り	振り返り ・高知県全体の課題の解決を考える	交流会	
備考	大阪→高知 高知市泊	高知→黒潮町 黒潮町泊	黒潮町 黒潮町泊	黒潮町→高知 高知市泊	高知市 高知市泊	高知→大阪

目的	事前学修	事後学習
本講義では、フィールドワークを通じて、高知県の自治体、企業、現地の高校生との関係を構築しながら地域の現状を知り、課題に気づき、解決方法を検討し、学生が当事者として自分の暮らす地域の課題として共感し、考察し、実践できるよう繋げることを目的としている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワークの進め方や意義について学ぶ</li> <li>・高知県についてのガイダンスを実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワークとグループワークの振り返り</li> <li>・講評</li> <li>・今後の学修への活用について説明</li> </ul>

## 国際共創プログラム（ベトナム：ハノイ他）実習プログラム案

日数	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目
内容 (予定)	(移動) 関西国際空港→ハノイ・ ノイバイ空港	北ベトナム：首都（ハノイ） ・ JICAベトナム事務所訪問 ・ ハノイ市内視察 ・ JICA協力事例視察	中部高原 ・ フィールドワーク：ダラット市内、ラムドン省視察 ・ フィールドワーク：ラムドン省人民委員会表敬、講義、質疑応答	中部高原：農業・観光と日本の関係 ・ フィールドワーク：Dalatの（アグリ）ツーリズムブランド化の可能性（視察） ・ 国際交流：Dalat大学外国語学部（またはホーチミン市建築大学）の学生と交流	中部高原：日本との経済関係 ・ フィールドワーク：日本への輸出企業視察、ヒアリング ・ フィールドワーク：現地進出日本企業視察・ヒアリング	南ベトナム：北ベトナムと異なる最大の経済圏、メコンデルタの入口 ・ JETROホーチミン事務所訪問 ・ 日本の援助によるインフラ整備視察 ・ ホーチミン市内視察  (移動) タンソンニャット空港→関西国際空港	(移動) 関西国際空港着

昭和 61 年 10 月 11 日制定

2019 年 3 月 19 日改正

## 第 1 章 総則

## (目的)

第 1 条 この規則は、学校法人大阪経済大学（以下「法人」という。）の教職員の就業に関する事項を定める。

2 この規則に定めるもののほか、教職員の就業に関する事項は、労働基準法その他の法令の定めるところによる。

## (適用範囲)

第 2 条 この規則は、法人に専任として勤務する教職員に適用する。

2 任期付専任教員、特任教員、客員教授、非常勤教員、嘱託職員、カウンセラー（専任事務職員）、準職員、パートタイム職員、学校医、非常勤看護師および非常勤カウンセラーは、別に定める。

3 前項の各職種において無期労働契約へ転換した者は、別に定める。

## (教職員の定義)

第 3 条 専任教職員とは教員ならびに職員をいい、職員は事務職員および技術職員をいう。

## (所属長の定義)

第 4 条 この規則にいう所属長とは、各教職員が所属する部門ごとの統括管理者をいう。

## 第 2 章 人事

## (通則)

第 5 条 法人は、教職員の採用、昇任、昇格、解任、異動、休職、復職、表彰、懲戒、退職および解雇などの人事に関し、本人の知識、技能、経験および健康などを考慮して公正に行う。

2 教員の人事については、教授会の意見を聴いて行う。

## (人事の手続き)

第 6 条 教職員の人事に関しては、原則として辞令を交付して行う。

2 辞令交付に関する事項は、別に定める「発令業務処理要項」による。

## (採用)

第 7 条 教職員は、所定の手続きを経て採用する。

2 教職員は採用にあたり、次の書類を提出しなければならない。

- (1) 履歴書
- (2) 卒業または卒業見込証明書
- (3) 学業成績証明書
- (4) 職務経歴書
- (5) その他、法人が必要とする書類

第 8 条 教職員に採用された者は、採用日から 2 週間以内に次の書類を提出しなければならない。

- (1) 住民票
- (2) 誓約書
- (3) その他、法人が必要とする書類

(試用期間)

第9条 職員に採用された者は、採用日から3ヵ月間を試用期間とする。

- 2 職員が試用期間中に、職員としての適格性を欠くと認める事実があるときは解雇する。
- 3 試用期間は、勤続年数に算入する。

(届出義務)

第10条 教職員は各種書類を提出後、その記載事項に異動が生じた場合はその都度遅滞なく届け出なければならない。

(異動)

第11条 法人は、業務上の都合により教職員の異動を行う。なお、教職員は、正当な理由がなければ異動の命令を拒否することはできない。

- 2 前項にいう異動とは、所属、勤務場所、職種の変更ならびに昇任、昇格および役職の任免をいう。

(休職)

第12条 教職員が次の各号のいずれかに該当するときは、休職させることがある。

- (1) 業務外の理由による傷病、その他精神または身体の故障による欠勤が1ヵ月を超え、なお療養を継続する必要があるため勤務できないとき
  - (2) 刑事事件に関し起訴または勾留されて勤務に支障ありと認められるとき
  - (3) 公職に就任し、職務遂行上支障が生じるとき
  - (4) 労働基準監督署が認定した業務上の理由による傷病のとき
- 2 前項第1号において欠勤中の者が勤務を開始し、再び同一または類似の事由により欠勤した場合、その勤務が1ヵ月に達しないときは、勤務前の欠勤期間と通算する。
  - 3 第1項第1号および第4号の理由により教職員が休職を必要とするに至った場合は、休職願に休職理由を証する医師の診断書等を添付し提出しなければならない。
  - 4 第1項第2号および第3号に該当する理由により休職する場合は無給とする。

(休職期間)

第13条 休職期間は、次のとおりとする。

- (1) 前条第1項第1号の場合
    - イ 勤続5年未満 在職期間を通じて通算1年以内
    - ロ 勤続5年以上 在職期間を通じて通算2年以内
  - (2) 刑事事件に関する場合 判決確定までの期間内
  - (3) 前条第1項第3号の場合 公職就任期間
  - (4) 前条第1項第4号の場合 療養を必要とする期間
- 2 前項第1号の休職者が復職後6ヵ月以内に同一理由によって再び休職する場合は、復職前の休職期間と通算する。

(復職)

第14条 休職理由が消滅した場合は、復職させる。

- 2 前第12条第1項第2号の事由で、休職期間満了による退職者が復職を希望する場合は、判決確定後において状況勘案のうえ復職させることができる。
- 3 復職を許可された者は、原則として休職直前の職務に復するものとする。
- 4 復職を希望する場合は、1ヵ月前までに復職願に次の書類を添付し提出しなければならない。

- (1) 心身の故障による休職の場合は、法人が指定する医師による元の職務に復帰させても支障がない旨の診断書
- (2) 前号以外の理由による休職の場合は、休職理由が消滅したことを証する書類  
(退職)

第15条 教職員が次の各号の一に該当したときは退職とする。

- (1) 死亡したとき
- (2) 定年に達したとき
- (3) 自己都合による退職の申し出が承認されたとき
- (4) 休職期間が満了しても復職できないとき  
(退職手続)

第16条 前条第3号により退職しようとする教職員は、退職希望日の30日前までに理由を記載した退職願を提出しなければならない。

(定年)

第17条 定年は、次のとおりとする。

- (1) 教員 満67歳
- (2) 職員 満62歳

2 定年に達したときは、当該年度の末日を退職日とする。

(解雇)

第18条 教職員が次の各号の一に該当したときは解雇する。

- (1) 懲戒解雇の処分を受けたとき
- (2) 精神または身体の故障により職務に耐えられないと法人が認めたとき
- (3) やむを得ない事情による法人の事業または制度の改廃のため剰員を生じたとき  
(解雇制限)

第19条 法人は、次の期間は解雇しない。

- (1) 教職員が業務上の傷病による療養のために休職する期間およびその後30日間
- (2) 出産休暇の期間およびその後30日間
- (3) 育児休業または介護休業の期間  
(離職者の手続)

第20条 教職員は離職時に、直ちに、教職員証、私立学校教職員共済加入者証および法人から貸与された物品を返還しなければならない。

2 離職に際しては、あらかじめ業務の引き継ぎを完了しなければならない。

### 第3章 勤務

(通則)

第21条 教職員は、勤務時間中自己の業務から離れてはならない。ただし、やむを得ない理由により自己の業務から離れる場合には、所属長の許可を得なければならない。

2 勤務時間中に私用で外出する場合は、所属長の許可を得なければならない。

3 職員は、早退する場合は、事前に理由を付記した早退届を所属長に提出し許可を得なければならない。

第22条 職員は、欠勤する場合は、事前に理由を付記した欠勤届を所属長に提出し許可を得なければならない。ただし、その余裕が無いときは、事後において遅滞なくその手続をとることとする。

- 2 教員が休講する場合は、事前に理由を付記した休講届を提出しなければならない。ただし、その余裕が無いときは、事後において遅滞なくその手続きをとるものとする。
- 3 教職員は、傷病による欠勤が引き続き5日以上に及ぶ場合、医師の診断書を提出しなければならない。
- 4 教職員は、欠勤が引き続き1ヵ月以上に及ぶ場合は、長期欠勤届に医師の診断書を添付し、所属長を経て理事長に届け出なければならない。なお、長期欠勤の期間は在職期間を通じて通算1年以内とする。

第23条 職員は、遅刻した場合はその理由を付記した遅刻届を所属長に提出しなければならない。

第24条 教員は、次に掲げる義務を有する。

- (1) 講義、演習、実習及び試験等の授業を行うこと
  - (2) 教授会に出席し、審議に参加すること
  - (3) 各種の委員会委員その他大阪経済大学および法人が任命又は委嘱した職務を行うこと
- 2 教員は正課以外にも、学生の教育および指導などに当たらなければならない。

(勤務時間)

第25条 勤務時間は、次のとおりとする。

- 2 教員の責任担当コマ数は、授業時間割表に従い原則として1週につき4コマとする。
- 3 前項にかかわらず、理事、副学長、学長補佐、学部長、研究科長の責任担当コマ数は、1週につき2コマとする。
- 4 前2項にかかわらず、学長の責任担当コマ数はないものとする。
- 5 職員の勤務時間は、1日7時間(休憩時間を除く。)1週40時間以内とし、原則、始業時刻は9時、終業時刻は17時とする。ただし、業務の都合等によりこれらの時刻を5分単位で繰り上げまたは繰り下げることがある。

(勤務時間の短縮)

第26条 以下の理由で労働時間の短縮を希望する場合は、1ヵ月前までに所定の申請書を提出しなければならない。

- (1) 満3歳に達するまでの子を養育するため
  - (2) 家族の介護をするため
  - (3) 長期欠勤または休職から復職するため
- 2 労働時間の短縮は30分単位とし、1日につき2時間までとする。ただし、前項第3号に該当する者については、1日につき2時間を超えて労働時間を短縮することができる。
  - 3 教員が労働時間の短縮を申し出たときは、職種の特異性にもとづき学長と学部長がその取り扱いを協議する。
  - 4 満3歳に達するまでの子の養育のための労働時間の短縮期間は、本人が申請した期間とする。
  - 5 家族の介護のための労働時間の短縮期間は、対象家族につき通算1年以内の間で、本人が申請した期間とする。
  - 6 長期欠勤または休職から復職するための労働時間の短縮期間は、通算3年以内の間で、本人が申請した期間・時間とする。ただし、復職から1年を超える期間については申請できない。

7 労働時間の短縮期間を途中で解除または変更するときは、1ヵ月前までに所定の申請書を提出しなければならない。

(休憩時間)

第27条 休憩時間は第2項の場合を除き12時30分から13時30分までとする。ただし、勤務時間および業務の都合によりその時間を変更する場合がある。

2 教員は、授業担当のない時間に随時休憩をとるものとする。

3 休憩時間は、自由に利用することができる。ただし、所在を明らかにしておかなければならない。

4 生後満1年に達しない乳児を育てる女性教職員には、勤務中、午前および午後にそれぞれ一回30分の育児時間を与えるものとする。

(学外の勤務)

第28条 教職員が出張その他の事由により、担当職場外において勤務する場合は特別の指示がある場合を除いて、所定の時間を勤務したものとみなす。

(時間外および休日勤務)

第29条 業務の都合により必要があるときは、労働基準法に定める手続きを経て所定の労働時間を超えて、または休日に勤務させることがある。

2 満3歳に達するまでの子を養育する教職員は、申請により超過勤務をさせることはない。

3 小学校就学の始期に達するまでの子を養育または要介護状態の家族の介護をする教職員は、申請により業務の正常な運営に支障を来たす場合を除き、1ヵ月につき24時間、1年について150時間を超える超過勤務および深夜勤務をさせることはない。

4 休日に通常の勤務をした場合は、振替休日を与えることがある。

(就業免除)

第30条 教職員が公民権行使のために要する時間が、所定の勤務時間内に及ぶ場合は、その要する時間に限り就業を免除する。ただし、事前に所属長に申し出なければならない。

2 前項の就業免除については無給とする。

#### 第4章 休日および休暇

(休日)

第31条 休日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日(法定休日)
- (2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- (3) 土曜日(8月のみ)
- (4) 夏期一斉休業日(8日間)
- (5) 年末年始休業日(11日間)
- (6) 法人が定めた休業日

(慶弔休暇)

第32条 教職員が次の各号の一に該当する理由で休暇を申請した場合は、それぞれ次の日数の慶弔休暇を与える。

- |                 |      |
|-----------------|------|
| (1) 本人の結婚       | 5日以内 |
| (2) 妻の出産        | 3日以内 |
| (3) 子の結婚        | 1日   |
| (4) 父母、配偶者、子の死亡 | 7日以内 |

- (5) 祖父母、配偶者の父母、孫、兄弟姉妹の死亡 3日以内
  - (6) 三親等内の親族、二親等内の姻族の死亡 2日以内
- (年次有給休暇)

第33条 教職員には、年次有給休暇（以下「年休」という。）を次のとおり与える。

- (1) 採用の日（職員にあっては試用開始日）から起算して6ヵ月間継続勤務し、全労働日の8割以上を勤務した者………10日
- (2) 全労働日の8割以上を勤務した場合、勤務年数に応じて加算した年休を次のとおり与える。

勤務年数	年休付与日数	勤務年数	年休付与日数
1年6ヵ月	11日	4年6ヵ月	16日
2年6ヵ月	12日	5年6ヵ月	18日
3年6ヵ月	14日	6年6ヵ月以上	20日

- 2 年休は、教職員の請求する時季に与える。ただし、請求した時季に年休を与えることが事業の正常な運営を妨げる場合においては、他の時季に与えることがある。
- 3 取得できなかった年休は、次年度に限り繰り越すことができる。
- 4 年休は、継続または分割して請求することができる。ただし、分割は半日単位とする。
- 5 本人の申し出によって、欠勤を年休に振り替えることができる。この場合は30日以内に届け出なければならない。
- 6 年休付与の出勤率の計算において、育児休業および介護休業の期間は、勤務したものとみなす。
- 7 始業時刻9時、終業時刻17時の者の半日年休の適用時間は9時から12時30分まで、または13時30分から17時までとする。ただし、業務の都合等により始業および終業の時刻を5分単位で繰り上げまたは繰り下げた場合は、同様に適用時間を5分単位で繰り上げまたは繰り下げる。
- 8 半日年休は、2回で1日の年休とみなす。
- 9 半日年休は、次年度に繰り越すことはできない。

(指定休暇)

第34条 業務に差し支えない範囲で、職員に指定休暇を与えることがある。

- 2 職員の指定休暇に関する事項は、「指定休暇制度に関する内規」による。

(妊産婦通院)

第35条 妊娠中の女性教職員が検診のため、あらかじめ申し出があった場合は、次に掲げる就業を免除する。ただし、医師等の指示がある場合は、その指示による。

- (1) 妊娠23週までは、4週間に1回
- (2) 妊娠24週から35週までは、2週間に1回
- (3) 妊娠36週以後出産までは、1週間に1回

- 2 妊娠中および出産後の勤務は、医師等の指示を考慮する。

(産前産後休業)

第36条 8週間（多胎妊娠の場合は16週間）以内に出産予定の女性教職員からの休業の請求があった場合は、産前産後を通じて16週間（多胎妊娠の場合は24週間）の産前産後休業を認める。

2 産前産後の休業配分は本人の自由とするが、産後においては8週間以上の配分としなければならない。

(育児休業)

第37条 子の養育に関する事項は、「育児休業規程」による。

(介護休業)

第38条 家族の介護に関する事項は、「介護休業規程」による。

(特別有給休暇)

第39条 次の各号の一に該当するときは、特別休暇を与える。

(1) 満35歳以上の教職員が学校法人大阪経済大学教職員健康管理規程第2条第3項または第3条における健康診断を受ける場合は、1年度について1日。

(2) 天災、事変その他教職員の責に帰することのできない理由によって災害を受け、または交通が遮断されて出勤することができない場合は、法人が必要と認めた期間。

(3) 小学校就学の始期に達するまでの子を養育する教職員が、負傷もしくは疾病にかかった当該子の世話をするために、または当該子に予防接種や健康診断を受けさせるために、当該子が1人の場合は1年度につき5日以内、2人以上の場合は1年度につき10日以内。

(4) 家族を介護する教職員が、要介護状態の家族の介護をするために、対象家族1人の場合は1年度につき5日以内、2人以上の場合は1年度につき10日以内。

2 前項第3号、第4号の休暇は、1日単位または半日(1日の所定労働時間の2分の1)単位で取得することができる。なお、1日の所定労働時間が4時間以下である教職員等は、1日単位でのみ取得できるものとする。

第40条 女性教職員で生理日の就業が著しく困難な場合は、本人の申し出による期間。

## 第5章 服務

(遵守義務)

第41条 教職員は、法人の定める諸規程および法令等を遵守し、職場の秩序を保持して本学の発展に寄与しなければならない。

2 教職員は、勤務時間中担当の業務に専念し、能率の発揮に努めなければならない。

3 教員は、その職務を遂行するため絶えず研究に努めるとともに、教育の向上に努めなければならない。

4 教員は、各学期について授業持時間を含めて1週について概ね3日出勤しなければならない。

5 教職員は、職場においてハラスメントがないよう努めなければならない。

6 教員は、出講簿に捺印しなければならない。

7 職員は、出勤時刻及び退勤時刻を打刻しなければならない。

## 第6章 研修

(研修の実施)

第42条 職員の研修に関する事項は、「学校法人大阪経済大学職員研修規程」による。

2 職員は命ぜられた研修を受けなければならない。

3 研修を受けた職員は、研修に関する報告書を理事長に提出しなければならない。

4 職員が所属長の許可を得た研修に要する時間は、所定の時間を勤務したものとみなす。

## 第7章 給与

### (給与)

第43条 給与に関する事項は、「学校法人大阪経済大学給与規程」および「学校法人大阪経済大学教職員退職給与規程」による。

## 第8章 安全および衛生

### (災害および事故の防止)

第44条 教職員は、職場の安全を保持し、常に災害および事故の防止に努めなければならない。

2 教職員は、火災その他災害の発生または危険発生の原因となり得る異常な兆候を認めるときは、直ちに臨機の措置をとるとともに関係者に報告しなければならない。

3 教職員は、災害あるいは事故が発生したときは、協力して被害を最小限に抑えるよう努めなければならない。

### (保健および衛生)

第45条 教職員は、保健および衛生に留意し、健康の保持に努めなければならない。

第46条 法人は、次の各号の一に該当する教職員に、就業の禁止、業務の転換その他必要な措置をとる。

(1) 心身に故障ある者および開放性結核患者

(2) 感染症の予防および感染症の患者に対する医療に関する法律に定める感染症で他の者に感染するおそれのある者およびその疑似患者

(3) 就業することにより病勢昂進のおそれがある者

(4) 医師が就業することを不相当と認めた者

## 第9章 災害補償

### (災害補償)

第47条 法人は、教職員が業務上または通勤途上において負傷し、疾病もしくは死亡した場合は、労働者災害補償保険法の定めにより補償する。

2 業務上または通勤途上における負傷、疾病により欠勤し、または休職を命じた場合で労働者災害補償保険法による補償を受ける期間は、給与を支給しない。

## 第10章 表彰および懲戒

### (表彰)

第48条 教職員が次の各号の一に該当する場合は、表彰する。

(1) 法人の発展に特に功労があった場合

(2) 学術上顕著な業績または教育上特に功労があった場合

(3) 永年誠実に勤務した場合

(4) その他表彰に値する行為があった場合

2 表彰は、賞状のほか賞品または賞金の授与をもって行う。

### (懲戒)

第49条 教職員に次の各号に掲げる行為があった場合は、事の軽重に応じ、情状を勘案して、次条に定める懲戒処分を行う。

(1) 学校法人大阪経済大学就業規則その他の諸規程又は業務上の指示及び命令に違反したとき

(2) 重要な経歴を偽りその他不正な方法で採用されたとき

(3) 勤務時間中に許可なく業務外の行為を行い、又は職務を放棄する行為があったとき

- (4) 勤務時間中に許可なく業務外の目的で集会又は会合をしたとき
- (5) 職務上の地位権限を超えた専断的行為があったとき
- (6) 業務上の重要な秘密を漏洩し、又はみだりに本学の文書、書類を他に閲覧させる行為のあったとき
- (7) 本学に届出を行わずに他の職業につき又は事業を営んだとき
- (8) 職務に関し、不当に金品その他の利益を受け又は贈与する行為があったとき
- (9) 許可なしに本学の物品を持ち出し、又は売却若しくは私用に供したとき
- (10) 他の教職員の業務を妨害し、又はこれに対し侮辱、脅迫若しくは暴行を加えたとき
- (11) 無届け欠勤が引き続き 20 日に及んだとき
- (12) 出勤常ならず又は遅刻を重ね、しばしば注意を受けても改めないとき
- (13) 故意又は重過失によって本学に重大な損害を与えたとき
- (14) 刑事上の犯罪を犯すなど、その他著しく本学の名誉及び信用を傷つけ、又は大学教・職員としての体面を汚す言動があったとき
- (15) しばしば懲戒処分を受け、改悛の見込みがないとき

第 50 条 懲戒の種類は、次の 6 種とし、これを併科しない。

- (1) けん責 始末書を提出させ将来を戒める。
- (2) 減給 始末書を提出させ、かつ 1 回の額が平均給与日額の 2 分の 1 を減ずる。ただし、総額において給与月額額の 10 分の 1 を限度とする。
- (3) 出勤停止 始末書を提出させ、かつ 30 日間を限度として出勤を停止し、その間の給与は支給しない。
- (4) 降職 始末書を提出させ、かつ職制上の地位を免じ、又は下位等級へ降格する。
- (5) 諭旨免職 諭旨により退職願を提出させる。これに応じないときは懲戒免職とする。
- (6) 懲戒免職 予告期間を設けず即時解雇し、退職給与の支給はしない。

第 51 条 教職員に懲戒処分に該当する行為があった場合は、当該所属長をも懲戒することがある。

(副業・兼業)

第 52 条 副業・兼業に関する事項は、別に定める「学校法人大阪経済大学副業・兼業届出要領」による。

(改廃)

第 53 条 この規則の改廃は、理事会が行う。

附 則

- 1 この就業規則は、昭和 61 年 10 月 11 日制定し、昭和 61 年 12 月 11 日から施行する。
- 2 この就業規則の解釈上又は適用上、疑義を生じた場合は、理事会が決定する。
- 3 この就業規則に改訂の必要が生じた場合は、本学の労働者の過半数を代表する者の意見を聞いて理事会が決定する。
- 4 この就業規則は、平成 3 年 4 月 1 日に改正し、同日から施行する。
- 5 この就業規則は、平成 4 年 3 月 16 日に改正し、平成 4 年 4 月 1 日から施行する。
- 6 この就業規則は、平成 4 年 10 月 27 日に改正し、平成 4 年 4 月 1 日から適用する。
- 7 この就業規則は、平成 6 年 2 月 18 日に改正し、平成 6 年 4 月 1 日から施行する。
- 8 この就業規則は、平成 6 年 9 月 22 日に改正し、平成 6 年 4 月 1 日から適用する。
- 9 この就業規則は、平成 8 年 4 月 22 日に改正し、平成 8 年 4 月 1 日から適用する。

- 10 この就業規則は、平成9年3月18日に改正し、平成9年4月1日から施行する。
- 11 この就業規則は、平成10年12月8日に改正し、平成10年4月1日から適用する。
- 12 この就業規則は、平成11年3月17日に改正し、平成11年4月1日から施行する。
- 13 この就業規則は、平成12年3月14日に改正し、平成12年4月1日から施行する。
- 14 この就業規則は、平成14年3月19日に改正し、平成14年4月1日から施行する。
- 15 この就業規則は、平成15年5月20日に改正し、平成15年4月1日から適用する。
- 16 この就業規則は、平成17年3月15日に改正し、平成17年4月1日から施行する。
- 17 この就業規則は、2010年3月16日に改正し、同年4月1日から施行する。

なお、この改正規則の施行に伴い、「育児休業規程に定める労働時間短縮についての取り扱い要項」「看護・介護休業規程に定める労働時間短縮についての取り扱い要項」「休職及び復職に関する手続（内規）」「休日勤務の取扱等について（内規）」「当直勤務規程」「当直勤務心得」および「半日有給休暇制度の実施について（内規）」は廃止する。

- 18 この就業規則は、2010年7月27日に改正し、同年6月30日から適用する。
- 19 この就業規則は、2013年12月10日に改正し、同日から施行する。
- 20 この就業規則は、2018年1月23日に改正し、同年4月1日から施行する。
- 21 この就業規則は、2019年3月19日に改正し、同年4月1日から施行する。

大阪経済大学研究活動に関する行動規範

2010年3月4日大学評議会決定

2015年3月3日改正・施行

大阪経済大学（以下「本学」という。）は、建学精神である「自由と融和」に則り、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的および応用的能力を展開させ、人間性豊かな実学教育の成果をあげることによって、社会の発展に寄与する使命を持つ。

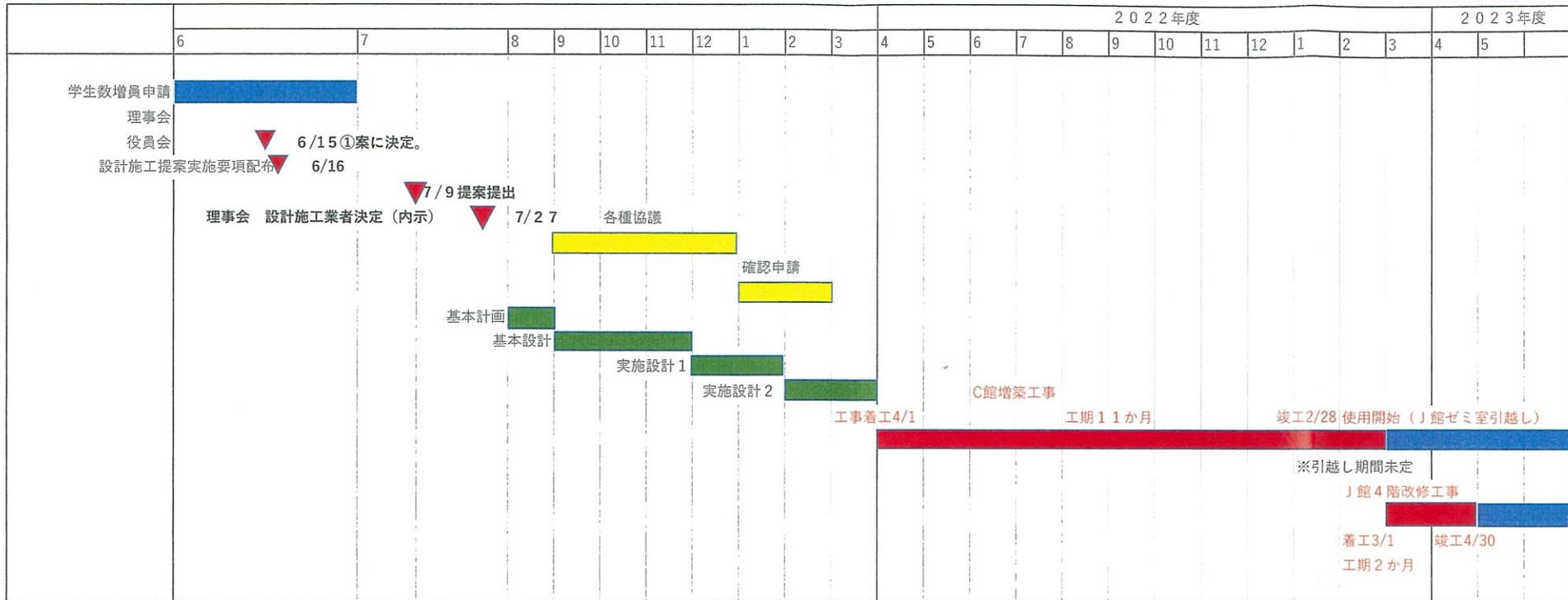
本学は、日本学術会議声明「科学者の行動規範」（平成18年10月3日制定、平成25年1月25日改訂）に準拠し、本学において研究活動を行うすべての者、およびこれを支援するすべての者（以下「研究者等」という。）が遵守すべき行動規範を以下のとおり定める。

1. 研究者等は、本学で管理する研究費が、学生納付金、公的資金、その他外部資金によって支えられていることを認識し、その使用および管理にあたり、研究費ごとに定められた条件、ルール等を遵守しなければならない。
2. 研究者等は、研究活動において、個人の尊厳および人権を尊重しなければならない。また、学生や共同研究者に対し、不利益を与えてはならない。
3. 研究者等は、研究活動において知り得た情報等について守秘義務を厳守し、消滅・改ざん・漏洩等を防ぐための措置を講じ、適切な期間保存するように努めなければならない。
4. 研究者等は、研究成果の発表において、ねつ造・改ざん・盗用等の不正行為を行わないことはもとより、不正行為の発生を未然に防止するように努めなければならない。
5. 研究者等は、利益相反に十分注意を払い、適切に対応する。
6. 研究者等は、不正行為が行われようとしている、あるいは、行われたことを知った場合には、それを放置してはならない。
7. この行動規範の改廃は、研究コンプライアンス推進委員会の意見を聴いて、理事長が行う。

# 資料40

(仮称)大阪経済大学C館増築、J館改修工事計画  
スケジュール案

2021年5月28日



国際共創学部 時間割表 月曜日

時限	開講科目名	単位	担当者	開講区分	科目区分	教室
1時限目	中国語Ⅱb	1	トウガン	春	全学共通科目 外国語科目	E43
	中国語Ⅳa	1	陳傑中	春	全学共通科目 外国語科目	G55
	日本語Ⅰ	1	松田由美子	春	全学共通科目 外国語科目	E22
	哲学入門	2	福岡大志	春	全学共通科目 広域科目	D33
	プレゼンテーション入門	2	鴨谷香	春	全学共通科目 広域科目	D44
	日本語表現演習(書き方)	2	山口俊雄	春	全学共通科目 広域科目	C51
	国際共創入門	2	梅村仁 他	春	学科専攻科目 入門科目	D32
	Advanced English(Discussion)	2	藤枝豊	春	学科専攻科目 英語77(ハント)科目	C3A
	演習Ⅱ	2	小林直三	春	学科専攻科目 演習科目	C2B
	演習Ⅱ	2	内藤雅一	春	学科専攻科目 演習科目	C2C
	演習Ⅱ	2	酒井大策	春	学科専攻科目 演習科目	C2A
	演習Ⅱ	2	小川未空	春	学科専攻科目 演習科目	C2D
	演習Ⅱ	2	河村賢	春	学科専攻科目 演習科目	C2E
	中国語Ⅰb	1	トウガン	秋	全学共通科目 外国語科目	E43
	中国語Ⅲa	1	陳傑中	秋	全学共通科目 外国語科目	G55
	哲学入門	2	福岡大志	秋	全学共通科目 広域科目	D12
	歴史学入門	2	猪原透	秋	全学共通科目 広域科目	D33
	Advanced English(Discussion)	2	藤枝豊	秋	学科専攻科目 英語77(ハント)科目	C3A
	演習Ⅲ	2	小林直三	秋	学科専攻科目 演習科目	C2B
	演習Ⅲ	2	内藤雅一	秋	学科専攻科目 演習科目	C2C
演習Ⅲ	2	酒井大策	秋	学科専攻科目 演習科目	C2A	
演習Ⅲ	2	小川未空	秋	学科専攻科目 演習科目	C2D	
演習Ⅲ	2	河村賢	秋	学科専攻科目 演習科目	C2E	
2時限目	英語Ⅲb[L&S]	1	HOLLEYMARK	春	全学共通科目 外国語科目	C3E
	フランス語Ⅰb[文法]	1	兼山美幸	春	全学共通科目 外国語科目	B34
	スペイン語Ⅰb[文法]	1	新谷美紀子	春	全学共通科目 外国語科目	A32
	中国語Ⅰa	1	トウガン	春	全学共通科目 外国語科目	E43
	中国語Ⅱb	1	范紫江	春	全学共通科目 外国語科目	B22
	朝鮮語Ⅱa	1	田星姫	春	全学共通科目 外国語科目	E32
	日本語Ⅲa	1	松田由美子	春	全学共通科目 外国語科目	E22
	TOEICⅠ	2	笹平桂子	春	全学共通科目 外国語科目	B31
	ビジネス英語Ⅰ	2	下吉真衣	春	全学共通科目 外国語科目	E51
	中国語演習	2	陳傑中	春	全学共通科目 広域科目	G55
	健康増進の理論	2	村瀬浩二	春	全学共通科目 広域科目	A33
	キャリアデザイン	2	濱田真輔	春	全学共通科目 広域科目	D12
	プレゼンテーション入門	2	鴨谷香	春	全学共通科目 広域科目	D44
	日本語表現演習(書き方)	2	山口俊雄	春	全学共通科目 広域科目	C53
	ロシヤンク	2	坂本ひとみ	春	学科専攻科目 入門科目	G61
	グローバルビジネス基礎	2	竹下智	春	学科専攻科目 基礎科目	C31
	まちづくり論	2	梅村仁	春	学科専攻科目 領域科目	G63
	Advanced English(Presentation)	2	藤枝豊	春	学科専攻科目 英語77(ハント)科目	C3A
	卒業研究Ⅰ	2	山谷清秀	春	学科専攻科目 演習科目	C3B
	英語Ⅳb[L&S]	2	HOLLEYMARK	秋	全学共通科目 外国語科目	C3E
	フランス語Ⅱb[文法]	1	兼山美幸	秋	全学共通科目 外国語科目	B34
	スペイン語Ⅱb[文法]	1	新谷美紀子	秋	全学共通科目 外国語科目	A32
	中国語Ⅰb	1	范紫江	秋	全学共通科目 外国語科目	B22
	中国語Ⅱa	1	トウガン	秋	全学共通科目 外国語科目	E43
	朝鮮語Ⅰa	1	田星姫	秋	全学共通科目 外国語科目	E32
	日本語Ⅳa	1	松田由美子	秋	全学共通科目 外国語科目	E22
	TOEICⅡ	2	笹平桂子	秋	全学共通科目 外国語科目	B31
	ビジネス英語Ⅱ	2	下吉真衣	秋	全学共通科目 外国語科目	E51
	中国語演習	2	陳傑中	秋	全学共通科目 外国語科目	G55
	歴史学入門	2	猪原透	秋	全学共通科目 広域科目	D33
	法学入門	2	大塚泰寿	秋	全学共通科目 広域科目	D10
	現代社会論	2	崔煌	秋	全学共通科目 広域科目	G42
	現代社会論	2	三宅拓人	秋	全学共通科目 広域科目	G51
	民俗学	2	東城義則	秋	全学共通科目 広域科目	D32
健康増進の理論	2	三宅真理	秋	全学共通科目 広域科目	A34	
キャリアデザイン	2	濱田真輔	秋	全学共通科目 広域科目	D12	
キャリア開発論	2	坂本ひとみ	秋	学科専攻科目 基礎科目	B21	
中小企業政策	2	梅村仁	秋	学科専攻科目 領域科目	E41	
Advanced English(Presentation)	2	藤枝豊	秋	学科専攻科目 英語77(ハント)科目	C3A	
演習Ⅰ	2	小林直三	秋	学科専攻科目 演習科目	C2B	
演習Ⅰ	2	内藤雅一	秋	学科専攻科目 演習科目	C2C	
演習Ⅰ	2	酒井大策	秋	学科専攻科目 演習科目	C2A	
演習Ⅰ	2	小川未空	秋	学科専攻科目 演習科目	C2D	
演習Ⅰ	2	河村賢	秋	学科専攻科目 演習科目	C2E	
卒業研究Ⅱ	2	山谷清秀	秋	学科専攻科目 演習科目	C3B	
3時限目	英語Ⅰb[L&S]	2	HOLLEYMARK	春	全学共通科目 外国語科目	C3E
	フランス語Ⅰb[文法]	1	兼山美幸	春	全学共通科目 外国語科目	B34
	ドイツ語Ⅰb[文法]	1	亀井一	春	全学共通科目 外国語科目	C53
	スペイン語Ⅰb[文法]	1	新谷美紀子	春	全学共通科目 外国語科目	A32
	中国語Ⅰa	1	トウガン	春	全学共通科目 外国語科目	E43
	中国語Ⅰb	1	陳傑中	春	全学共通科目 外国語科目	G55
	中国語Ⅰb	1	范紫江	春	全学共通科目 外国語科目	B22
	朝鮮語Ⅰa	1	田星姫	春	全学共通科目 外国語科目	E32
	朝鮮語Ⅰb	1	松田由美子	春	全学共通科目 外国語科目	E22
	キャリアデザイン	2	濱田真輔	春	全学共通科目 広域科目	D12
	論理的思考入門	2	鴨谷香	春	全学共通科目 広域科目	B21
	日本語表現演習(話し方)	2	松田由美子	春	全学共通科目 広域科目	A21
	文化人類学	2	早川公	春	学科専攻科目 基礎科目	G44
	ローカルビジネス・スタディ	2	藤本典嗣	春	学科専攻科目 共創科目	C2A
	Advanced English(Debate)	2	藤枝豊	春	学科専攻科目 英語77(ハント)科目	C3A
	卒業研究Ⅰ	2	大和里美	春	学科専攻科目 演習科目	C2C
	右上段に続く					

時限	開講科目名	単位	担当者	開講区分	科目区分	教室	
3時限目	左下段より続く						
	英語Ⅱb[L&S]	1	HOLLEYMARK	秋	全学共通科目 外国語科目	C3E	
	フランス語Ⅱb[文法]	1	兼山美幸	秋	全学共通科目 外国語科目	B34	
	ドイツ語Ⅱb[文法]	1	亀井一	秋	全学共通科目 外国語科目	C53	
	スペイン語Ⅱb[文法]	1	新谷美紀子	秋	全学共通科目 外国語科目	A32	
	中国語Ⅱa	1	トウガン	秋	全学共通科目 外国語科目	E43	
	中国語Ⅱb	1	陳傑中	秋	全学共通科目 外国語科目	G55	
	中国語Ⅱb	1	范紫江	秋	全学共通科目 外国語科目	B22	
	朝鮮語Ⅱa	1	田星姫	秋	全学共通科目 外国語科目	E32	
	朝鮮語Ⅱb	1	松田由美子	秋	全学共通科目 外国語科目	E22	
	現代社会論	2	三品拓人	秋	全学共通科目 広域科目	G51	
	考古学	2	前田敬彦	秋	全学共通科目 広域科目	D21	
	健康増進の理論	2	村瀬浩二	秋	全学共通科目 広域科目	A33	
	テーザイニス概論	2	野山知子	秋	全学共通科目 広域科目	E31	
	キャリアデザイン	2	濱田真輔	秋	全学共通科目 広域科目	D12	
	論理的思考入門	2	鴨谷香	秋	全学共通科目 広域科目	B21	
	日本語表現演習(話し方)	2	松田由美子	秋	全学共通科目 広域科目	A21	
	グローバル企業論	2	竹内詩織	秋	学科専攻科目 基幹科目	メディア	
	Advanced English(Debate)	2	藤枝豊	秋	学科専攻科目 英語77(ハント)科目	C3A	
	Peace and Coexistence	2	友次晋介	秋	学科専攻科目 英語77(ハント)科目	C2A	
卒業研究Ⅱ	2	大和里美	秋	学科専攻科目 演習科目	C2C		
4時限目	英語Ⅰb[L&S]	2	HOLLEYMARK	春	全学共通科目 外国語科目	C3E	
	フランス語Ⅰb[文法]	1	兼山美幸	春	全学共通科目 外国語科目	B34	
	ドイツ語Ⅰa[講読]	1	志田章	春	全学共通科目 外国語科目	E33	
	ドイツ語Ⅰb[文法]	1	亀井一	春	全学共通科目 外国語科目	C53	
	スペイン語Ⅰb[文法]	1	新谷美紀子	春	全学共通科目 外国語科目	A32	
	中国語Ⅰa	1	トウガン	春	全学共通科目 外国語科目	E43	
	中国語Ⅰb	1	陳傑中	春	全学共通科目 外国語科目	G55	
	中国語Ⅰb	1	范紫江	春	全学共通科目 外国語科目	B22	
	朝鮮語Ⅰa	1	田星姫	春	全学共通科目 外国語科目	E32	
	日本語Ⅰa	1	松田由美子	春	全学共通科目 外国語科目	E22	
	日本文化論	2	辻晶子	春	全学共通科目 広域科目	D41	
	論理的思考入門	2	鴨谷香	春	全学共通科目 広域科目	B21	
	世界経済史	2	吉田建一郎	春	学科専攻科目 基幹科目	D11	
	英語Ⅱb[L&S]	1	HOLLEYMARK	秋	全学共通科目 外国語科目	C3E	
	フランス語Ⅱb[文法]	1	兼山美幸	秋	全学共通科目 外国語科目	B34	
	ドイツ語Ⅱa[講読]	1	志田章	秋	全学共通科目 外国語科目	E33	
	ドイツ語Ⅱb[文法]	1	亀井一	秋	全学共通科目 外国語科目	C53	
	スペイン語Ⅱb[文法]	1	新谷美紀子	秋	全学共通科目 外国語科目	A32	
	中国語Ⅱa	1	トウガン	秋	全学共通科目 外国語科目	E43	
	中国語Ⅱb	1	陳傑中	秋	全学共通科目 外国語科目	G55	
中国語Ⅱb	1	范紫江	秋	全学共通科目 外国語科目	B22		
朝鮮語Ⅱa	1	田星姫	秋	全学共通科目 外国語科目	E32		
日本語Ⅱa	1	松田由美子	秋	全学共通科目 外国語科目	E22		
スポーツの理論	2	永松昌樹	秋	全学共通科目 広域科目	A33		
テーザイニス概論	2	野山知子	秋	全学共通科目 広域科目	E31		
論理的思考入門	2	鴨谷香	秋	全学共通科目 広域科目	B21		
社会的企業論	2	松永佳甫	秋	学科専攻科目 領域科目	E42		
5時限目	フランス語Ⅳa[講読]	1	兼山美幸	春	全学共通科目 外国語科目	B34	
	ドイツ語Ⅳb[文法]	1	志田章	春	全学共通科目 外国語科目	E33	
	中国語Ⅱb	1	范紫江	春	全学共通科目 外国語科目	B22	
	日本語表現演習(書き方)	2	辻晶子	春	全学共通科目 広域科目	B21	
	共生社会論	2	田島栄文	春	学科専攻科目 領域科目	E21	
	アカデミックスキルⅠ	2	大和里美	春	学科専攻科目 演習科目	C2C	
	アカデミックスキルⅠ	2	小川未空	春	学科専攻科目 演習科目	C2D	
	アカデミックスキルⅠ	2	山谷清秀	春	学科専攻科目 演習科目	C3B	
	卒業研究Ⅰ	2	藤本典嗣	春	学科専攻科目 演習科目	B2E	
	フランス語Ⅲa[講読]	1	兼山美幸	秋	全学共通科目 外国語科目	C34	
	ドイツ語Ⅲb[文法]	1	志田章	秋	全学共通科目 外国語科目	E33	
	中国語Ⅱb	1	范紫江	秋	全学共通科目 外国語科目	B22	
	TOEICⅡ	2	中谷純子	秋	全学共通科目 外国語科目	A23	
	福祉社会論	2	田島栄文	秋	学科専攻科目 領域科目	E21	
	アカデミックスキルⅡ	2	大和里美	秋	学科専攻科目 演習科目	C2C	
	アカデミックスキルⅡ	2	酒井大策	秋	学科専攻科目 演習科目	C2A	
	アカデミックスキルⅡ	2	友次晋介	秋	学科専攻科目 演習科目	C2B	
アカデミックスキルⅡ	2	小川未空	秋	学科専攻科目 演習科目	C2D		
アカデミックスキルⅡ	2	山谷清秀	秋	学科専攻科目 演習科目	C3B		
卒業研究Ⅱ	2	藤本典嗣	秋	学科専攻科目 演習科目	C2E		
6時限目	人文地理学	2	長谷川達也	春	全学共通科目 広域科目	D31	
	地誌	2	長谷川達也	秋	全学共通科目 広域科目	D31	

国際共創学部 時間割表\_火曜日

時限	開講科目名	単位	担当者	開講区分	科目区分	教室
1時限目	日本の歴史	2	望月みわ	春	全学共通科目 広域科目	G61
	スポーツの理論	2	大前拓	春	全学共通科目 広域科目	D21
	社会学概論	2	河村賢一	春	学科専攻科目 入門科目	E21
	環境と社会	2	熊澤輝一	春	学科専攻科目 領域科目	E32
	演習Ⅱ	2	梅村仁	春	学科専攻科目 演習科目	C2D
	演習Ⅱ	2	大和里美	春	学科専攻科目 演習科目	C2C
	演習Ⅱ	2	友次晋介	春	学科専攻科目 演習科目	C2E
	スポーツの理論	2	大前拓	秋	全学共通科目 広域科目	D21
	国際社会論	2	河村賢一	秋	学科専攻科目 基礎科目	E21
	NGO・NPO論	2	松永佳甫	秋	学科専攻科目 基礎科目	D32
	環境デザイン論	2	熊澤輝一	秋	学科専攻科目 領域科目	E32
	演習Ⅲ	2	梅村仁	秋	学科専攻科目 演習科目	C2D
	演習Ⅲ	2	大和里美	秋	学科専攻科目 演習科目	C2C
	演習Ⅲ	2	友次晋介	秋	学科専攻科目 演習科目	C2E
2時限目	フランス語Ⅲb[文法]	1	久後貴行	春	全学共通科目 外国語科目	A23
	中国語Ⅲb	1	陳薇	春	全学共通科目 外国語科目	G53
	朝鮮語Ⅱb	1	南美恵	春	全学共通科目 外国語科目	G52
	朝鮮語Ⅲb	1	田星姫	春	全学共通科目 外国語科目	E32
	TOEIC I	2	笹平桂子	春	全学共通科目 外国語科目	B31
	英語コミュニケーション I	2	久保祐美子	春	全学共通科目 外国語科目	B42
	ドイツ語演習	2	野間砂理	春	全学共通科目 外国語科目	G64
	心理学入門	2	仁利国之	春	全学共通科目 広域科目	A33
	日本語表現	2	中村美子	春	全学共通科目 広域科目	A34
	日本の歴史	2	望月みわ	春	全学共通科目 広域科目	G61
	スポーツの理論	2	大前拓	春	全学共通科目 広域科目	D21
	Basic English A	2	藤枝豊	春	学科専攻科目 入門科目	C2A
	社会心理学	2	永野光朗	春	学科専攻科目 基礎科目	E43
	地域産業論	2	藤本典嗣	春	学科専攻科目 領域科目	E31
	卒業研究 I	2	滝澤克彦	春	学科専攻科目 演習科目	C3A
	卒業研究 I	2	坂本ひとみ	春	学科専攻科目 演習科目	C2B
	卒業研究 I	2	小川未空	春	学科専攻科目 演習科目	C2D
	フランス語Ⅳb[文法]	1	久後貴行	秋	全学共通科目 外国語科目	A23
	中国語Ⅳb	1	陳薇	秋	全学共通科目 外国語科目	G53
	朝鮮語Ⅰb	1	南美恵	秋	全学共通科目 外国語科目	G52
	朝鮮語Ⅳb	1	田星姫	秋	全学共通科目 外国語科目	E32
	TOEIC II	2	笹平桂子	秋	全学共通科目 外国語科目	B31
	英語コミュニケーション II	2	久保祐美子	秋	全学共通科目 外国語科目	B42
	現代と教育	2	保田その	秋	全学共通科目 広域科目	G51
	日本語表現	2	中村美子	秋	全学共通科目 広域科目	A34
	経営学入門	2	張ハーハラ	秋	全学共通科目 広域科目	D33
	スポーツの理論	2	大前拓	秋	全学共通科目 広域科目	D21
	Basic English B	2	藤枝豊	秋	学科専攻科目 入門科目	C2A
	社会システム論	2	河村賢一	秋	学科専攻科目 基礎科目	B33
	演習Ⅰ	2	梅村仁	秋	学科専攻科目 演習科目	C5A
	演習Ⅰ	2	大和里美	秋	学科専攻科目 演習科目	C2C
	演習Ⅰ	2	友次晋介	秋	学科専攻科目 演習科目	C2E
	卒業研究Ⅱ	2	滝澤克彦	秋	学科専攻科目 演習科目	C3A
	卒業研究Ⅱ	2	坂本ひとみ	秋	学科専攻科目 演習科目	C2B
卒業研究Ⅱ	2	小川未空	秋	学科専攻科目 演習科目	C2D	
3時限目	フランス語Ⅰb[文法]	1	久後貴行	春	全学共通科目 外国語科目	A23
	ドイツ語Ⅰa[講読]	1	野間砂理	春	全学共通科目 外国語科目	G64
	スペイン語Ⅰa[講読]	1	寺本あけみ	春	全学共通科目 外国語科目	A42
	スペイン語Ⅰa[講読]	1	村上寿英	春	全学共通科目 外国語科目	B43
	中国語Ⅰa	1	桜木陽子	春	全学共通科目 外国語科目	G44
	中国語Ⅰa	1	楊麗珍	春	全学共通科目 外国語科目	G55
	中国語Ⅰb	1	陳薇	春	全学共通科目 外国語科目	G53
	朝鮮語Ⅰa	1	田星姫	春	全学共通科目 外国語科目	E32
	朝鮮語Ⅰb	1	李美丹	春	全学共通科目 外国語科目	E43
	朝鮮語Ⅰb	1	南美恵	春	全学共通科目 外国語科目	G52
	心理学入門	2	仁利国之	春	全学共通科目 広域科目	A33
	文学入門	2	中村美子	春	全学共通科目 広域科目	A34
	社会学入門	2	田川夢乃	春	全学共通科目 広域科目	G61
	キャリアデザイン	2	鴨谷香	春	全学共通科目 広域科目	D12
	Japanese Culture	2	島村幸忠	春	学科専攻科目 基礎科目	B21
	国際社会と人権	2	小林直三	春	学科専攻科目 基礎科目	C31
	地方創生論	2	藤本典嗣	春	学科専攻科目 領域科目	E33
	卒業研究Ⅰ	2	梅村仁	春	学科専攻科目 演習科目	C5A
	フランス語Ⅱb[文法]	1	久後貴行	秋	全学共通科目 外国語科目	A23
	ドイツ語Ⅱa[講読]	1	野間砂理	秋	全学共通科目 外国語科目	G64
	スペイン語Ⅱa[講読]	1	寺本あけみ	秋	全学共通科目 外国語科目	A42
	スペイン語Ⅱa[講読]	1	村上寿英	秋	全学共通科目 外国語科目	B43
	中国語Ⅱa	1	桜木陽子	秋	全学共通科目 外国語科目	G44
	中国語Ⅱa	1	楊麗珍	秋	全学共通科目 外国語科目	G55
	中国語Ⅱb	1	陳薇	秋	全学共通科目 外国語科目	G53
	朝鮮語Ⅱa	1	田星姫	秋	全学共通科目 外国語科目	E32
	朝鮮語Ⅱb	1	李美丹	秋	全学共通科目 外国語科目	E43
	朝鮮語Ⅱb	1	南美恵	秋	全学共通科目 外国語科目	G52
	倫理学入門	2	中村信隆	秋	全学共通科目 広域科目	D41
	日本の文学	2	中村美子	秋	全学共通科目 広域科目	A33
	日本の文学	2	水川布美子	秋	全学共通科目 広域科目	G62
	欧米の文学	2	福田圭三	秋	全学共通科目 広域科目	D21
	キャリアデザイン	2	鴨谷香	秋	全学共通科目 広域科目	D12
	エンターテインメント	2	小林直三	秋	学科専攻科目 基礎科目	C31
ソーシャルキャピタル論	2	松永佳甫	秋	学科専攻科目 領域科目	E41	
卒業研究Ⅱ	2	梅村仁	秋	学科専攻科目 演習科目	C5A	

時限	開講科目名	単位	担当者	開講区分	科目区分	教室
4時限目	英語Ⅰa[R&W]	1	溝川泰章	春	全学共通科目 外国語科目	C2A
	英語Ⅰb[L&S]	1	ILES LOWELL	春	全学共通科目 外国語科目	C2B
	フランス語Ⅰb[文法]	1	久後貴行	春	全学共通科目 外国語科目	A23
	ドイツ語Ⅰa[講読]	1	野間砂理	春	全学共通科目 外国語科目	G64
	ドイツ語Ⅰb[文法]	1	志田章	春	全学共通科目 外国語科目	E33
	スペイン語Ⅰa[講読]	1	寺本あけみ	春	全学共通科目 外国語科目	A42
	スペイン語Ⅰa[講読]	1	ヘラルド	春	全学共通科目 外国語科目	A22
	スペイン語Ⅰb[文法]	1	村上寿英	春	全学共通科目 外国語科目	B43
	中国語Ⅰa	1	桜木陽子	春	全学共通科目 外国語科目	G44
	中国語Ⅰa	1	楊麗珍	春	全学共通科目 外国語科目	G55
	中国語Ⅰb	1	陳薇	春	全学共通科目 外国語科目	G53
	朝鮮語Ⅰa	1	田星姫	春	全学共通科目 外国語科目	E32
	朝鮮語Ⅰb	1	李美丹	春	全学共通科目 外国語科目	E43
	朝鮮語Ⅰb	1	南美恵	春	全学共通科目 外国語科目	G52
	英語コミュニケーションⅠ	2	重光美恵	春	全学共通科目 外国語科目	C52
	現代と教育	2	保田その	春	全学共通科目 広域科目	G51
	文学入門	2	近藤直美	春	全学共通科目 広域科目	D21
	文学入門	2	中村美子	春	全学共通科目 広域科目	A34
	経済学入門	2	中瀬浩介	春	全学共通科目 広域科目	G42
	社会学入門	2	田川夢乃	春	全学共通科目 広域科目	G61
	数学入門	2	大下顕弘	春	全学共通科目 広域科目	B21
	プレゼンテーション入門	2	鴨谷香	春	全学共通科目 広域科目	D44
	多文化コミュニケーション	2	小川未空	春	学科専攻科目 基礎科目	B31
	卒業研究Ⅰ	2	沖浦文彦	春	学科専攻科目 演習科目	C2C
	英語Ⅱa[R&W]	1	溝川泰章	秋	全学共通科目 外国語科目	C2A
	英語Ⅱb[L&S]	1	ILES LOWELL	秋	全学共通科目 外国語科目	C2B
	フランス語Ⅱa[文法]	1	久後貴行	秋	全学共通科目 外国語科目	A23
	ドイツ語Ⅱa[講読]	1	野間砂理	秋	全学共通科目 外国語科目	G64
	ドイツ語Ⅱb[文法]	1	志田章	秋	全学共通科目 外国語科目	E33
	スペイン語Ⅱa[講読]	1	寺本あけみ	秋	全学共通科目 外国語科目	A42
	スペイン語Ⅱa[講読]	1	ヘラルド	秋	全学共通科目 外国語科目	A22
	スペイン語Ⅱb[文法]	1	村上寿英	秋	全学共通科目 外国語科目	B43
	中国語Ⅱa	1	桜木陽子	秋	全学共通科目 外国語科目	G44
	中国語Ⅱa	1	楊麗珍	秋	全学共通科目 外国語科目	G55
中国語Ⅱb	1	陳薇	秋	全学共通科目 外国語科目	G53	
朝鮮語Ⅱa	1	田星姫	秋	全学共通科目 外国語科目	E32	
朝鮮語Ⅱb	1	李美丹	秋	全学共通科目 外国語科目	E43	
朝鮮語Ⅱb	1	南美恵	秋	全学共通科目 外国語科目	G52	
日本の文学	2	近藤直美	秋	全学共通科目 広域科目	D21	
日本の文学	2	中村美子	秋	全学共通科目 広域科目	A33	
日本の文学	2	水川布美子	秋	全学共通科目 広域科目	G62	
中国の文学	2	瞿艶丹	秋	全学共通科目 広域科目	G41	
プレゼンテーション入門	2	鴨谷香	秋	全学共通科目 広域科目	D44	
公共政策	2	山谷清秀	秋	学科専攻科目 領域科目	E31	
卒業研究Ⅱ	2	沖浦文彦	秋	学科専攻科目 演習科目	C2C	
5時限目	英語Ⅰa[R&W]	2	溝川泰章	春	全学共通科目 外国語科目	C2A
	ドイツ語Ⅱa[講読]	1	志田章	春	全学共通科目 外国語科目	E33
	朝鮮語Ⅳa[講読]	1	ヘラルド	春	全学共通科目 外国語科目	A22
	朝鮮語Ⅳb	1	田星姫	春	全学共通科目 外国語科目	E32
	TOEIC I	2	平敷亮子	春	全学共通科目 外国語科目	E22
	英語コミュニケーションⅠ	2	グレコ	春	全学共通科目 外国語科目	B32
	現代の倫理	2	中村信隆	春	全学共通科目 広域科目	D33
	現代の法	2	四條北斗	春	全学共通科目 広域科目	D42
	プレゼンテーション入門	2	鴨谷香	春	全学共通科目 広域科目	D44
	現代文化論	2	吉川ゆかり	春	学科専攻科目 領域科目	B21
	英語文学A	2	福田圭三	春	学科専攻科目 英語学・文化科目	E63
	アカデミックスキルⅠ	2	松永佳甫	春	学科専攻科目 演習科目	C3A
	アカデミックスキルⅠ	2	河村賢一	春	学科専攻科目 演習科目	C2C
	アカデミックスキルⅠ	2	島村幸忠	春	学科専攻科目 演習科目	C3C
卒業研究Ⅰ	2	酒井大策	春	学科専攻科目 演習科目	C2B	
英語Ⅱa[R&W]	2	溝川泰章	秋	全学共通科目 外国語科目	C2A	
ドイツ語Ⅰa[講読]	1	志田章	秋	全学共通科目 外国語科目	E33	
スペイン語Ⅱa[講読]	1	ヘラルド	秋	全学共通科目 外国語科目	A22	
TOEIC II	2	平敷亮子	秋	全学共通科目 外国語科目	E22	
英語コミュニケーションⅡ	2	グレコ	秋	全学共通科目 外国語科目	B32	
現代の倫理	2	中村信隆	秋	全学共通科目 広域科目	D41	
プレゼンテーション入門	2	鴨谷香	秋	全学共通科目 広域科目	D44	
文化政策	2	吉川ゆかり	秋	学科専攻科目 領域科目	B21	
アカデミックスキルⅡ	2	松永佳甫	秋	学科専攻科目 演習科目	C3A	
アカデミックスキルⅡ	2	河村賢一	秋	学科専攻科目 演習科目	C2C	
アカデミックスキルⅡ	2	島村幸忠	秋	学科専攻科目 演習科目	C3C	
卒業研究Ⅱ	2	酒井大策	秋	学科専攻科目 演習科目	C2B	
6時限目	現代と教育	2	保田その	春	全学共通科目 広域科目	G51
	心理学入門	2	鶴山洋子	秋	全学共通科目 広域科目	D33

国際共創学部\_時間割表\_水曜日

時限	開講科目名	単位	担当者	開講区分	科目区分	教室
1時限目	フランス語Ⅳb[文法]	1	中所聖一	春	全学共通科目 外国語科目	B33
	スペイン語Ⅲb[文法]	1	牧野香織	春	全学共通科目 外国語科目	B42
	中国語Ⅱa	1	桂 小蘭	春	全学共通科目 外国語科目	B43
	中国語Ⅲb	1	鄭 萍	春	全学共通科目 外国語科目	B31
	日本語Ⅴa	1	松田由美子	春	全学共通科目 外国語科目	E22
	政治学入門	2	土居充夫	春	全学共通科目 広域科目	D21
	現代の日本経済	2	言美伊知朗	春	全学共通科目 広域科目	D32
	レクリエーションの理論	2	三宅孝昭	春	全学共通科目 広域科目	D31
	地理学入門	2	全ウヰフ	春	全学共通科目 広域科目	G42
	生物学入門	2	設楽哲弥	春	全学共通科目 広域科目	C31
	経済学概論Ⅰ	2	内藤雅一	春	学科専攻科目 入門科目	D42
	国際文化論	2	滝澤克彦	春	学科専攻科目 基礎科目	E41
	認知科学	2	蔵口佳彦	春	学科専攻科目 基礎科目	D42
	演習Ⅱ	2	沖浦文彦	春	学科専攻科目 演習科目	C3C
	演習Ⅱ	2	熊澤輝一	春	学科専攻科目 演習科目	C2E
	演習Ⅱ	2	竹下智	春	学科専攻科目 演習科目	C2D
	演習Ⅱ	2	松永佳甫	春	学科専攻科目 演習科目	C2C
	演習Ⅱ	2	坂本ひとみ	春	学科専攻科目 演習科目	C2A
	演習Ⅱ	2	島村幸忠	春	学科専攻科目 演習科目	C2B
	フランス語Ⅲb[文法]	1	中所聖一	秋	全学共通科目 外国語科目	B33
	スペイン語Ⅳb[文法]	1	牧野香織	秋	全学共通科目 外国語科目	B42
	中国語Ⅰa	1	桂 小蘭	秋	全学共通科目 外国語科目	B43
	中国語Ⅳb	1	鄭 萍	秋	全学共通科目 外国語科目	B31
	日本語Ⅵa	1	松田由美子	秋	全学共通科目 外国語科目	E22
現代の心理学	2	中谷桂子	秋	全学共通科目 広域科目	A34	
現代の政治	2	土居充夫	秋	全学共通科目 広域科目	D21	
大阪の経済と文化	2	高田剛司	秋	全学共通科目 広域科目	D32	
地理学入門	2	全ウヰフ	秋	全学共通科目 広域科目	G42	
プレゼンテーション入門	2	濱田真輔	秋	全学共通科目 入門科目	D44	
経済学概論Ⅱ	2	内藤雅一	秋	学科専攻科目 入門科目	D42	
経済情報分析	2	細井真人	秋	学科専攻科目 基礎科目	G43	
演習Ⅲ	2	沖浦文彦	秋	学科専攻科目 演習科目	C3C	
演習Ⅲ	2	熊澤輝一	秋	学科専攻科目 演習科目	C2E	
演習Ⅲ	2	竹下智	秋	学科専攻科目 演習科目	C2D	
演習Ⅲ	2	松永佳甫	秋	学科専攻科目 演習科目	C2C	
演習Ⅲ	2	坂本ひとみ	秋	学科専攻科目 演習科目	C2A	
演習Ⅲ	2	島村幸忠	秋	学科専攻科目 演習科目	C2B	
2時限目	フランス語Ⅱa[講読]	1	中所聖一	春	全学共通科目 外国語科目	B33
	ドイツ語Ⅲb[文法]	1	長縄寛	春	全学共通科目 外国語科目	C63
	スペイン語Ⅲb[文法]	1	牧野香織	春	全学共通科目 外国語科目	B42
	中国語Ⅰb	1	鄭 萍	春	全学共通科目 外国語科目	B31
	中国語Ⅱa	1	桂 小蘭	春	全学共通科目 外国語科目	B43
	中国語Ⅲa	1	浦元里花	春	全学共通科目 外国語科目	B22
	朝鮮語Ⅲa	1	崔 孝先	春	全学共通科目 外国語科目	A51
	日本語Ⅰa	1	松田由美子	春	全学共通科目 外国語科目	E22
	TOEICⅠ	2	富岡紀子	春	全学共通科目 外国語科目	E32
	哲学入門	2	青柳雅文	春	全学共通科目 広域科目	G62
	現代の日本経済	2	言美伊知朗	春	全学共通科目 広域科目	D32
	法学入門	2	大塚泰寿	春	全学共通科目 広域科目	G61
	社会学入門	2	喜多満里花	春	全学共通科目 広域科目	D11
	レクリエーションの理論	2	三宅孝昭	春	全学共通科目 広域科目	D31
	地理学入門	2	全ウヰフ	春	全学共通科目 広域科目	G42
	生物学入門	2	設楽哲弥	春	全学共通科目 広域科目	C31
	Global Issues	2	内藤雅一	春	学科専攻科目 基礎科目	E33
	アジア文化論	2	滝澤克彦	春	学科専攻科目 領域科目	E42
	English Communication A	2	藤枝豊	春	学科専攻科目 英語7ハンス科目	C2B
	卒業研究Ⅰ	2	友次晋介	春	学科専攻科目 演習科目	C2C
	卒業研究Ⅰ	2	河村賢	春	学科専攻科目 演習科目	C2D
	フランス語Ⅰa[講読]	1	中所聖一	秋	全学共通科目 外国語科目	B33
	ドイツ語Ⅳb[文法]	1	長縄寛	秋	全学共通科目 外国語科目	C63
	スペイン語Ⅳb[文法]	1	牧野香織	秋	全学共通科目 外国語科目	B42
	中国語Ⅰa	1	桂 小蘭	秋	全学共通科目 外国語科目	B43
	中国語Ⅱb	1	鄭 萍	秋	全学共通科目 外国語科目	B31
	中国語Ⅳa	1	浦元里花	秋	全学共通科目 外国語科目	B22
	朝鮮語Ⅰa	1	朴英珠	秋	全学共通科目 外国語科目	E43
	朝鮮語Ⅳa	1	崔 孝先	秋	全学共通科目 外国語科目	A51
	日本語Ⅱa	1	松田由美子	秋	全学共通科目 外国語科目	E22
	TOEICⅡ	2	富岡紀子	秋	全学共通科目 外国語科目	E32
	現代と哲学	2	青柳雅文	秋	全学共通科目 広域科目	G62
	現代の倫理	2	安井絢子	秋	全学共通科目 広域科目	E31
	日本語表現	2	辻晶子	秋	全学共通科目 広域科目	D12
	健康増進の理論	2	江藤幹	秋	全学共通科目 広域科目	E41
	地理学入門	2	全ウヰフ	秋	全学共通科目 広域科目	G42
	プレゼンテーション入門	2	濱田真輔	秋	全学共通科目 広域科目	D44
	国際経済論	2	内藤雅一	秋	学科専攻科目 基礎科目	D42
	リーダーシップ論	2	横山孝文	秋	学科専攻科目 基礎科目	C54
	地域研究B	2	滝澤克彦	秋	学科専攻科目 領域科目	E33
	演習Ⅰ	2	沖浦文彦	秋	学科専攻科目 演習科目	C3C
	演習Ⅰ	2	熊澤輝一	秋	学科専攻科目 演習科目	C2E
	演習Ⅰ	2	竹下智	秋	学科専攻科目 演習科目	C2D
	演習Ⅰ	2	松永佳甫	秋	学科専攻科目 演習科目	C2C
	演習Ⅰ	2	坂本ひとみ	秋	学科専攻科目 演習科目	C2A
	演習Ⅰ	2	島村幸忠	秋	学科専攻科目 演習科目	C2B
卒業研究Ⅱ	2	友次晋介	秋	学科専攻科目 演習科目	C3C	
卒業研究Ⅱ	2	河村賢	秋	学科専攻科目 演習科目	C3D	
3時限目	フランス語Ⅰa[講読]	1	中所聖一	春	全学共通科目 外国語科目	B33
	フランス語Ⅰa[講読]	1	山口威	春	全学共通科目 外国語科目	E62
	フランス語Ⅰb[文法]	1	久後貴行	春	全学共通科目 外国語科目	A23
	ドイツ語Ⅰa[講読]	1	野間砂理	春	全学共通科目 外国語科目	G64
	ドイツ語Ⅰb[文法]	1	長縄寛	春	全学共通科目 外国語科目	G63
	スペイン語Ⅰa[講読]	1	寺尾江利子	春	全学共通科目 外国語科目	A21
	スペイン語Ⅰb[文法]	1	牧野香織	春	全学共通科目 外国語科目	B42
	中国語Ⅰa	1	浦元里花	春	全学共通科目 外国語科目	B22
	中国語Ⅰa	1	桂 小蘭	春	全学共通科目 外国語科目	B43
	中国語Ⅰb	1	安力	春	全学共通科目 外国語科目	G53
	中国語Ⅰb	1	胡金定	春	全学共通科目 外国語科目	C63
	中国語Ⅰb	1	鄭 萍	春	全学共通科目 外国語科目	B31
	朝鮮語Ⅰa	1	崔 孝先	春	全学共通科目 外国語科目	A51
	朝鮮語Ⅰa	1	朴英珠	春	全学共通科目 外国語科目	E43
	朝鮮語Ⅰb	1	松田由美子	春	全学共通科目 外国語科目	E22
	哲学入門	2	青柳雅文	春	全学共通科目 広域科目	G62
	心理学入門	2	富高智成	春	全学共通科目 広域科目	A33
	日本文化論	2	島村幸忠	春	全学共通科目 広域科目	D32
	社会学入門	2	喜多満里花	春	全学共通科目 広域科目	D11
	スポーツ実技A	2	三宅孝昭	春	全学共通科目 広域科目	体育実技
	平和と紛争	2	友次晋介	春	学科専攻科目 領域科目	E31
	Regional Environment and Sustainability	2	熊澤輝一	春	学科専攻科目 英語7ハンス科目	C2E
	フランス語Ⅱa[講読]	1	中所聖一	秋	全学共通科目 外国語科目	B33
	フランス語Ⅱa[講読]	1	山口威	秋	全学共通科目 外国語科目	E62
フランス語Ⅱb[文法]	1	久後貴行	秋	全学共通科目 外国語科目	A23	
ドイツ語Ⅱa[講読]	1	野間砂理	秋	全学共通科目 外国語科目	G64	
ドイツ語Ⅱb[文法]	1	長縄寛	秋	全学共通科目 外国語科目	G63	
スペイン語Ⅱa[講読]	1	寺尾江利子	秋	全学共通科目 外国語科目	A21	
スペイン語Ⅱb[文法]	1	牧野香織	秋	全学共通科目 外国語科目	B42	
中国語Ⅱa	1	浦元里花	秋	全学共通科目 外国語科目	B22	
中国語Ⅱa	1	桂 小蘭	秋	全学共通科目 外国語科目	B43	
中国語Ⅱb	1	安力	秋	全学共通科目 外国語科目	G53	
中国語Ⅱb	1	胡金定	秋	全学共通科目 外国語科目	C63	
中国語Ⅱb	1	鄭 萍	秋	全学共通科目 外国語科目	B31	
朝鮮語Ⅱa	1	崔 孝先	秋	全学共通科目 外国語科目	A51	
朝鮮語Ⅱa	1	朴英珠	秋	全学共通科目 外国語科目	E43	
朝鮮語Ⅱb	1	松田由美子	秋	全学共通科目 外国語科目	E22	
現代と哲学	2	青柳雅文	秋	全学共通科目 広域科目	G62	
現代と哲学	2	稲岡大志	秋	全学共通科目 広域科目	E41	
スポーツ実技B	2	三宅孝昭	秋	全学共通科目 広域科目	体育実技	
データ分析と活用	2	北村慎也	秋	学科専攻科目 入門科目	D43	
宗教と社会	2	森本聡	秋	学科専攻科目 基礎科目	E21	
国際関係論	2	友次晋介	秋	学科専攻科目 領域科目	E31	
4時限目	英語Ⅰb[L&S]	1	藤枝豊	春	全学共通科目 外国語科目	C2B
	フランス語Ⅰa[講読]	1	山口威	春	全学共通科目 外国語科目	E62
	フランス語Ⅰb[文法]	1	秋吉孝浩	春	全学共通科目 外国語科目	G64
	フランス語Ⅰb[文法]	1	久後貴行	春	全学共通科目 外国語科目	A23
	ドイツ語Ⅰb[文法]	1	長縄寛	春	全学共通科目 外国語科目	G63
	スペイン語Ⅰa[講読]	1	寺尾江利子	春	全学共通科目 外国語科目	A21
	スペイン語Ⅱb[文法]	1	牧野香織	春	全学共通科目 外国語科目	B42
	中国語Ⅰa	1	浦元里花	春	全学共通科目 外国語科目	B22
	中国語Ⅰb	1	安力	春	全学共通科目 外国語科目	G53
	中国語Ⅰb	1	胡金定	春	全学共通科目 外国語科目	C63
	中国語Ⅰb	1	鄭 萍	春	全学共通科目 外国語科目	B31
	中国語Ⅱa	1	桂 小蘭	春	全学共通科目 外国語科目	B43
	朝鮮語Ⅰa	1	崔 孝先	春	全学共通科目 外国語科目	A51
	朝鮮語Ⅰa	1	朴英珠	春	全学共通科目 外国語科目	E43
	TOEICⅠ	2	山口修	春	全学共通科目 外国語科目	G43
	ビジネス英語Ⅰ	2	下吉真衣	春	全学共通科目 外国語科目	E51
	現代と哲学	2	稲岡大志	春	全学共通科目 広域科目	E41
	人文地理学	2	全ウヰフ	春	全学共通科目 広域科目	C31
	心理学入門	2	富高智成	春	全学共通科目 広域科目	A33
	健康増進の理論	2	坪内伸司	春	全学共通科目 広域科目	D32
	テーザガイダンス概論	2	草薙信照	春	全学共通科目 広域科目	C5A
	卒業研究Ⅰ	2	内藤雅一	春	学科専攻科目 演習科目	C2C
	卒業研究Ⅰ	2	松永佳甫	春	学科専攻科目 演習科目	C2D
	英語Ⅱb[L&S]	1	藤枝豊	秋	全学共通科目 外国語科目	C2B
フランス語Ⅱa[講読]	1	山口威	秋	全学共通科目 外国語科目	E62	
フランス語Ⅱb[文法]	1	秋吉孝浩	秋	全学共通科目 外国語科目	G44	
フランス語Ⅱb[文法]	1	久後貴行	秋	全学共通科目 外国語科目	A23	
ドイツ語Ⅱb[文法]	1	長縄寛	秋	全学共通科目 外国語科目	G63	
スペイン語Ⅱa[講読]	1	寺尾江利子	秋	全学共通科目 外国語科目	A21	
中国語Ⅰa	1	桂 小蘭	秋	全学共通科目 外国語科目	B43	
中国語Ⅱa	1	浦元里花	秋	全学共通科目 外国語科目	B22	
中国語Ⅱb	1	安力	秋	全学共通科目 外国語科目	G53	
中国語Ⅱb	1	胡金定	秋	全学共通科目 外国語科目	C63	
中国語Ⅱb	1	鄭 萍	秋	全学共通科目 外国語科目	B31	
朝鮮語Ⅱa	1	崔 孝先	秋	全学共通科目 外国語科目	A51	
朝鮮語Ⅱa	1	朴英珠	秋	全学共通科目 外国語科目	E43	
TOEICⅡ	2	山口修	秋	全学共通科目 外国語科目	G43	
ビジネス英語Ⅱ	2	下吉真衣	秋	全学共通科目 外国語科目	E51	
スペイン語演習	2	牧野香織	秋	全学共通科目 外国語科目	B42	
現代と宗教	2	森本聡	秋	全学共通科目 広域科目	D21	
人文地理学	2	全ウヰフ	秋	全学共通科目 広域科目	C31	
文学入門	2	辻晶子	秋	全学共通科目 広域科目	D12	
卒業研究Ⅱ	2	内藤雅一	秋	学科専攻科目 演習科目	C2C	
卒業研究Ⅱ	2	松永佳甫	秋	学科専攻科目 演習科目	C2D	

時限	開講科目名	単位	担当者	開講区分	科目区分	教室	
1時限目	フランス語Ⅳb[文法]	1	中所聖一	春	全学共通科目 外国語科目	B33	
	スペイン語Ⅲb[文法]	1	山口威	春	全学共通科目 外国語科目	E62	
	中国語Ⅱa	1	久後貴行	春	全学共通科目 外国語科目	A23	
	中国語Ⅲb	1	野間砂理	春	全学共通科目 外国語科目	G64	
	日本語Ⅴa	1	長縄寛	春	全学共通科目 外国語科目	G63	
	政治学入門	2	寺尾江利子	春	全学共通科目 外国語科目	A21	
	現代の日本経済	2	牧野香織	春	全学共通科目 外国語科目	B42	
	レクリエーションの理論	2	浦元里花	春	全学共通科目 外国語科目	B22	
	地理学入門	2	桂 小蘭	春	全学共通科目 外国語科目	B43	
	生物学入門	2	安力	春	全学共通科目 外国語科目	G53	
	経済学概論Ⅰ	2	胡金定	春	全学共通科目 外国語科目	C63	
	国際文化論	2	鄭 萍	春	全学共通科目 外国語科目	B31	
	認知科学	2	崔 孝先	春	全学共通科目 外国語科目	A51	
	演習Ⅱ	2	朴英珠	春	全学共通科目 外国語科目	E43	
	演習Ⅱ	2	松田由美子	春	全学共通科目 外国語科目	E22	
	演習Ⅱ	2	青柳雅文	春	全学共通科目 広域科目	G62	
	演習Ⅱ	2	富高智成	春	全学共通科目 広域科目	A33	
	演習Ⅱ	2	島村幸忠	春	全学共通科目 広域科目	D32	
	演習Ⅱ	2	喜多満里花	春	全学共通科目 広域科目	D11	
	演習Ⅱ	2	三宅孝昭	春	全学共通科目 広域科目	体育実技	
	演習Ⅱ	2	友次晋介	春	学科専攻科目 領域科目	E31	
	演習Ⅱ	2	熊澤輝一	春	学科専攻科目 英語7ハンス科目	C2E	
	2時限目	フランス語Ⅱa[講読]	1	中所聖一	秋	全学共通科目 外国語科目	B33
		ドイツ語Ⅲb[文法]	1	山口威	秋	全学共通科目 外国語科目	E62
スペイン語Ⅲb[文法]		1	久後貴行	秋	全学共通科目 外国語科目	A23	
中国語Ⅰb		1	野間砂理	秋	全学共通科目 外国語科目	G64	
中国語Ⅱa		1	長縄寛	秋	全学共通科目 外国語科目	G63	
中国語Ⅲa		1	寺尾江利子	秋	全学共通科目 外国語科目	A21	
朝鮮語Ⅲa		1	牧野香織	秋	全学共通科目 外国語科目	B42	
日本語Ⅰa		1	浦元里花	秋	全学共通科目 外国語科目	B22	
TOEICⅠ		2	桂 小蘭	秋	全学共通科目 外国語科目	B43	
哲学入門		2	安力	秋	全学共通科目 外国語科目	G53	
現代の心理学		2	胡金定	秋	全学共通科目 外国語科目	C63	
現代の政治		2	鄭 萍	秋	全学共通科目 外国語科目	B31	
大阪の経済と文化		2	崔 孝先	秋	全学共通科目 外国語科目	A51	
地理学入門		2	朴英珠	秋	全学共通科目 外国語科目	E43	
プレゼンテーション入門		2	松田由美子	秋	全学共通科目 外国語科目	E22	
経済学概論Ⅱ		2	青柳雅文	秋	全学共通科目 広域科目	G62	
経済情報分析		2	稲岡大志	秋	全学共通科目 広域科目	E41	
演習Ⅲ		2	三宅孝昭	秋	全学共通科目 広域科目	体育実技	
演習Ⅲ		2	北村慎也	秋	学科専攻科目 入門科目	D43	
演習Ⅲ		2	森本聡	秋	学科専攻科目 基礎科目	E21	
演習Ⅲ		2	友次晋介	秋	学科専攻科目 領域科目	E31	
3時限目		英語Ⅰb[L&S]	1	藤枝豊	春	全学共通科目 外国語科目	C2B
		フランス語Ⅰa[講読]	1	山口威	春	全学共通科目 外国語科目	E62
		フランス語Ⅰb[文法]	1	秋吉孝浩	春	全学共通科目 外国語科目	G64
	フランス語Ⅰb[文法]	1	久後貴行	春	全学共通科目 外国語科目	A23	
	ドイツ語Ⅰb[文法]	1	長縄寛	春	全学共通科目 外国語科目	G63	
	スペイン語Ⅰa[講読]	1	寺尾江利子	春	全学共通科目 外国語科目	A21	

国際共創学部\_時間割表\_水曜日

時限	開講科目名	単位	担当者	開講区分	科目区分	教室
5 時 限 目	フランス語Ⅱb[文法]	1	秋吉孝浩	春	全学共通科目 外国語科目	G64
	ドイツ語Ⅳa[講読]	1	長縄寛	春	全学共通科目 外国語科目	G63
	スペイン語Ⅳb[文法]	1	寺尾江利子	春	全学共通科目 外国語科目	A21
	朝鮮語Ⅱa	1	崔孝先	春	全学共通科目 外国語科目	A51
	ビジネス英語Ⅰ	2	ヘイル	春	全学共通科目 外国語科目	B34
	フランス語演習	2	山口威	春	全学共通科目 外国語科目	E62
	現代の心理学	2	富高智成	春	全学共通科目 広域科目	A33
	美術史	2	惣田くみ子	春	全学共通科目 広域科目	C31
	歴史学入門	2	山本正	春	全学共通科目 広域科目	D31
	データサイエンス概論	2	小川貴之	春	全学共通科目 広域科目	D42
	環境政策	2	村上沙央里	春	学科専攻科目 領域科目	E21
	アカデミックスキルⅠ	2	坂本ひとみ	春	学科専攻科目 演習科目	C2B
	卒業研究Ⅰ	2	熊澤輝一	春	学科専攻科目 演習科目	C2C
	フランス語Ⅰb[文法]	1	秋吉孝浩	秋	全学共通科目 外国語科目	G44
	ドイツ語Ⅲa[講読]	1	長縄寛	秋	全学共通科目 外国語科目	G63
	スペイン語Ⅲb[文法]	1	寺尾江利子	秋	全学共通科目 外国語科目	A21
	朝鮮語Ⅲa	1	崔孝先	秋	全学共通科目 外国語科目	A51
	ビジネス英語Ⅱ	2	ヘイル	秋	全学共通科目 外国語科目	B34
	現代と宗教	2	森本 聡	秋	全学共通科目 広域科目	D21
	ヨーロッパの歴史	2	山本正	秋	全学共通科目 広域科目	D11
	現代の法	2	四條北斗	秋	全学共通科目 広域科目	D12
	地球の科学	2	玉井雅人	秋	全学共通科目 広域科目	D31
	生活文化論	2	北村伊都子	秋	学科専攻科目 領域科目	B41
	アートマネジメント	2	江藤慎介	秋	学科専攻科目 領域科目	D32
	アカデミックスキルⅡ	2	沖浦文彦	秋	学科専攻科目 演習科目	C2D
	アカデミックスキルⅡ	2	坂本ひとみ	秋	学科専攻科目 演習科目	C2B
	卒業研究Ⅱ	2	熊澤輝一	秋	学科専攻科目 演習科目	C2C

時限	開講科目名	単位	担当者	開講区分	科目区分	教室
6 時 限 目	哲学入門	2	稲岡大志	春	全学共通科目 広域科目	B21
	現代と宗教	2	森本 聡	春	全学共通科目 広域科目	D21
	現代のビジネス	2	鈴木雄也	春	全学共通科目 広域科目	D33
	美術史	2	惣田くみ子	春	全学共通科目 広域科目	C31
	地球の科学	2	玉井雅人	秋	全学共通科目 広域科目	D31

国際共創学部 時間割表\_木曜日

時限	開講科目名	単位	担当者	開講区分	科目区分	教室
1時限目	スポーツの理論	2	崔潤淑	春	全学共通科目 広域科目	D42
	情報化社会と技術	2	竹下智	春	学科専攻科目 入門科目	D32
	国際社会と日本文化	2	島村幸忠	春	学科専攻科目 基礎科目	B31
	国際開発論	2	沖浦文彦	春	学科専攻科目 演習科目	E42
	演習Ⅱ	2	滝澤克彦	春	学科専攻科目 演習科目	C2A
	演習Ⅱ	2	藤枝豊	春	学科専攻科目 演習科目	C2B
	演習Ⅱ	2	藤本典嗣	春	学科専攻科目 演習科目	C2C
	演習Ⅱ	2	山谷清秀	春	学科専攻科目 演習科目	C2D
	演習Ⅲ	2	滝澤克彦	秋	学科専攻科目 演習科目	C2A
	演習Ⅲ	2	藤枝豊	秋	学科専攻科目 演習科目	C2B
演習Ⅲ	2	藤本典嗣	秋	学科専攻科目 演習科目	C2C	
演習Ⅲ	2	山谷清秀	秋	学科専攻科目 演習科目	C2D	
2時限目	英語Ⅲa[R&W]	1	古賀哲男	春	全学共通科目 外国語科目	C3C
	スペイン語Ⅱb[文法]	1	高岡麻衣	春	全学共通科目 外国語科目	A21
	朝鮮語Ⅲa	1	李裕淑	春	全学共通科目 外国語科目	B21
	中国語演習	2	楊麗珍	春	全学共通科目 外国語科目	B44
	教育学入門	2	樋口太郎	春	全学共通科目 広域科目	G42
	現代社会学	2	河村賢	春	全学共通科目 広域科目	D32
	宇宙の科学	2	青木成一郎	春	全学共通科目 広域科目	D42
	キャリアデザイン	2	濱田真輔	春	全学共通科目 広域科目	D12
	日本語表現演習(話し方)	2	島田順子	春	全学共通科目 広域科目	G53
	Basic English A	2	平松さやか	春	学科専攻科目 入門科目	C2A
	Basic English A	2	森本恒平	春	学科専攻科目 入門科目	C2B
	クリエイティブシンキング	2	辻村和正	春	学科専攻科目 基礎科目	B31
	地域研究C	2	小川未空	春	学科専攻科目 領域科目	C4A
	国際協力論	2	沖浦文彦	春	学科専攻科目 領域科目	E42
	卒業研究Ⅰ	2	小林直三	春	学科専攻科目 演習科目	C3E
	英語Ⅳa[R&W]	1	古賀哲男	秋	全学共通科目 外国語科目	C3C
	スペイン語Ⅰb[文法]	1	高岡麻衣	秋	全学共通科目 外国語科目	A22
	朝鮮語Ⅰb	1	李美丹	秋	全学共通科目 外国語科目	E43
	朝鮮語Ⅳa	1	李裕淑	秋	全学共通科目 外国語科目	B21
	現代の心理学	2	田中健吾	秋	全学共通科目 広域科目	G42
宇宙の科学	2	青木成一郎	秋	全学共通科目 広域科目	D42	
キャリアデザイン	2	鴨谷香	秋	全学共通科目 広域科目	D12	
日本語表現演習(書き方)	2	島田順子	秋	全学共通科目 広域科目	G53	
Basic English B	2	平松さやか	秋	学科専攻科目 入門科目	C2A	
Basic English B	2	森本恒平	秋	学科専攻科目 入門科目	C2B	
国際社会と教育	2	小川未空	秋	学科専攻科目 領域科目	E53	
Development and Management	2	沖浦文彦	秋	学科専攻科目 英語7a/ハソ科目	G63	
演習Ⅰ	2	滝澤克彦	秋	学科専攻科目 演習科目	C2A	
演習Ⅰ	2	藤枝豊	秋	学科専攻科目 演習科目	C2B	
演習Ⅰ	2	藤本典嗣	秋	学科専攻科目 演習科目	C2C	
演習Ⅰ	2	山谷清秀	秋	学科専攻科目 演習科目	C2D	
卒業研究Ⅱ	2	小林直三	秋	学科専攻科目 演習科目	C3E	
3時限目	英語Ⅰa[R&W]	1	古賀哲男	春	全学共通科目 外国語科目	C3C
	英語Ⅰa[R&W]	1	平松さやか	春	全学共通科目 外国語科目	C2A
	スペイン語Ⅰa[講読]	1	寺本あけみ	春	全学共通科目 外国語科目	A42
	スペイン語Ⅰb[文法]	1	高岡麻衣	春	全学共通科目 外国語科目	A21
	中国語Ⅰa	1	閻立	春	全学共通科目 外国語科目	E63
	中国語Ⅰa	1	桜木陽子	春	全学共通科目 外国語科目	G44
	中国語Ⅰa	1	島田順子	春	全学共通科目 外国語科目	G53
	中国語Ⅰa	1	楊麗珍	春	全学共通科目 外国語科目	G55
	中国語Ⅰb	1	谷力	春	全学共通科目 外国語科目	B44
	中国語Ⅰb	1	張 衛	春	全学共通科目 外国語科目	A41
	中国語Ⅰb	1	陳 昭宜	春	全学共通科目 外国語科目	G63
	朝鮮語Ⅰa	1	大山高弘	春	全学共通科目 外国語科目	B31
	朝鮮語Ⅰa	1	裴貴得	春	全学共通科目 外国語科目	E42
	朝鮮語Ⅰb	1	李美丹	春	全学共通科目 外国語科目	E43
	朝鮮語Ⅰb	1	李裕淑	春	全学共通科目 外国語科目	B21
	心理学入門	2	田中健吾	春	全学共通科目 広域科目	D41
	心理学入門	2	松田幸弘	春	全学共通科目 広域科目	A33
	健康増進の理論	2	福本直子	春	全学共通科目 広域科目	D32
	物理学入門	2	青木成一郎	春	全学共通科目 広域科目	D33
	キャリアデザイン	2	濱田真輔	春	全学共通科目 広域科目	D12
グローバルビジネス・スタディ	2	竹下智	春	学科専攻科目 共創科目	C2B	
英語Ⅱa[R&W]	1	古賀哲男	秋	全学共通科目 外国語科目	C3C	
英語Ⅱa[R&W]	1	平松さやか	秋	全学共通科目 外国語科目	C2A	
スペイン語Ⅱa[講読]	1	寺本あけみ	秋	全学共通科目 外国語科目	A42	
スペイン語Ⅱb[文法]	1	高岡麻衣	秋	全学共通科目 外国語科目	A22	
中国語Ⅱa	1	閻立	秋	全学共通科目 外国語科目	E63	
中国語Ⅱa	1	桜木陽子	秋	全学共通科目 外国語科目	G44	
中国語Ⅱa	1	島田順子	秋	全学共通科目 外国語科目	G53	
中国語Ⅱa	1	楊麗珍	秋	全学共通科目 外国語科目	G55	
中国語Ⅱb	1	谷力	秋	全学共通科目 外国語科目	B44	
中国語Ⅱb	1	張 衛	秋	全学共通科目 外国語科目	A41	
中国語Ⅱb	1	陳 昭宜	秋	全学共通科目 外国語科目	G63	
朝鮮語Ⅱa	1	大山高弘	秋	全学共通科目 外国語科目	B31	
朝鮮語Ⅱa	1	裴貴得	秋	全学共通科目 外国語科目	E42	
朝鮮語Ⅱb	1	李美丹	秋	全学共通科目 外国語科目	E43	
朝鮮語Ⅱb	1	李裕淑	秋	全学共通科目 外国語科目	B21	
フランス語演習	2	鈴木隆芳	秋	全学共通科目 外国語科目	C3A	
現代の心理学	2	松田幸弘	秋	全学共通科目 広域科目	A33	
健康増進の理論	2	福本直子	秋	全学共通科目 広域科目	D32	
現代と物理学	2	青木成一郎	秋	全学共通科目 広域科目	E21	
テーザサイエンス概論	2	野山知子	秋	全学共通科目 広域科目	E31	
キャリアデザイン	2	鴨谷香	秋	全学共通科目 広域科目	D12	
情報産業論	2	竹下智	秋	学科専攻科目 領域科目	E41	

時限	開講科目名	単位	担当者	開講区分	科目区分	教室
4時限目	英語Ⅰb[L&S]	1	森本恒平	春	全学共通科目 外国語科目	C6A
	スペイン語Ⅰa[講読]	1	寺本あけみ	春	全学共通科目 外国語科目	A42
	朝鮮語Ⅳa	1	李裕淑	春	全学共通科目 外国語科目	B21
	英語コミュニケーションⅠ	2	重光美恵	春	全学共通科目 外国語科目	C52
	アジアの歴史	2	竹腰礼子	春	全学共通科目 広域科目	B44
	数学入門	2	梶原康史	春	全学共通科目 広域科目	B41
	卒業研究Ⅰ	2	竹下智	春	学科専攻科目 演習科目	C2C
	卒業研究Ⅰ	2	藤枝豊	春	学科専攻科目 演習科目	C2D
	卒業研究Ⅰ	2	島村幸忠	春	学科専攻科目 演習科目	C2E
	社会ネットワーク論	2	難波孝志	春	学科専攻科目 領域科目	D32
	アカデミックスキルⅠ	2	小林直三	春	学科専攻科目 演習科目	C2A
	アカデミックスキルⅠ	2	内藤雅一	春	学科専攻科目 演習科目	C2B
	英語Ⅱb[L&S]	1	森本恒平	秋	全学共通科目 外国語科目	C6A
	スペイン語Ⅲa	1	寺本あけみ	秋	全学共通科目 外国語科目	A42
	日本語Ⅱb	1	島田順子	秋	全学共通科目 外国語科目	G53
	英語コミュニケーションⅡ	2	重光美恵	秋	全学共通科目 外国語科目	C52
	朝鮮語演習	2	李裕淑	秋	全学共通科目 外国語科目	B21
	日本の憲法	2	藤澤宏樹	秋	全学共通科目 広域科目	D41
	現代の数学	2	大下顕弘	秋	全学共通科目 広域科目	B31
	現代の数学	2	梶原康史	秋	全学共通科目 広域科目	B33
メディアと社会	2	西田裕美	秋	学科専攻科目 領域科目	D32	
アカデミックスキルⅡ	2	熊澤輝一	秋	学科専攻科目 演習科目	C5A	
アカデミックスキルⅡ	2	小林直三	秋	学科専攻科目 演習科目	C2A	
アカデミックスキルⅡ	2	滝澤克彦	秋	学科専攻科目 演習科目	C5B	
卒業研究Ⅱ	2	内藤雅一	秋	学科専攻科目 演習科目	C2B	
卒業研究Ⅱ	2	竹下智	秋	学科専攻科目 演習科目	C2C	
卒業研究Ⅱ	2	藤枝豊	秋	学科専攻科目 演習科目	C2D	
卒業研究Ⅱ	2	島村幸忠	秋	学科専攻科目 演習科目	C2E	
5時限目	アジアの歴史	2	竹腰礼子	春	全学共通科目 広域科目	B44
	現代の法	2	四條北斗	春	全学共通科目 広域科目	E22

# 国際共創学部 時間割表\_金曜日

時限	開講科目名	単位	担当者	開講区分	科目区分	教室
1時限目	ドイツ語Ⅱb[文法]	1	甲斐浩一	春	全学共通科目 外国語科目	A23
	スペイン語Ⅲa[講読]	1	ヘラルド	春	全学共通科目 外国語科目	A41
	芸術学入門	2	小松健一	春	全学共通科目 広域科目	A33
	社会調査法入門	2	吉村紀子	春	学科専攻科目 入門科目	D12
	Reading and Writing A	2	古賀哲男	春	学科専攻科目 英語7ドハント科目	C2A
	ドイツ語Ⅱb[文法]	1	甲斐浩一	秋	全学共通科目 外国語科目	A23
	スペイン語Ⅳa[講読]	1	ヘラルド	秋	全学共通科目 外国語科目	A41
	キャリアデザイン	2	鴨谷香	秋	全学共通科目 広域科目	D12
	政治学	2	井口吉男	秋	学科専攻科目 基幹科目	D31
	Reading and Writing B	2	古賀哲男	秋	学科専攻科目 英語7ドハント科目	C2A
2時限目	フランス語Ⅱb[文法]	1	大場千景	春	全学共通科目 外国語科目	E23
	フランス語Ⅲa[講読]	1	秋吉孝浩	春	全学共通科目 外国語科目	G64
	ドイツ語Ⅲa[講読]	1	甲斐浩一	春	全学共通科目 外国語科目	A23
	スペイン語Ⅰa[講読]	1	河邊真次	春	全学共通科目 外国語科目	E22
	スペイン語Ⅲa[講読]	1	ヘラルド	春	全学共通科目 外国語科目	A41
	中国語Ⅰb	1	バン新平	春	全学共通科目 外国語科目	A21
	中国語Ⅲa	1	和泉ひとみ	春	全学共通科目 外国語科目	B34
	朝鮮語Ⅲb	1	金美華	春	全学共通科目 外国語科目	B31
	日本語Ⅲb	1	島田順子	春	全学共通科目 外国語科目	G53
	英語コミュニケーションⅠ	2	テニーシャ	春	全学共通科目 外国語科目	E42
政治学入門	2	井口吉男	春	全学共通科目 広域科目	D31	
キャリアデザイン	2	鴨谷香	春	全学共通科目 広域科目	D12	
Basic English A	2	北村ひろよ	春	学科専攻科目 入門科目	C2C	
Basic English A	2	菅原愛理	春	学科専攻科目 入門科目	C2D	
社会思想史	2	北田了介	春	学科専攻科目 基幹科目	D42	
英文法	2	古賀哲男	春	学科専攻科目 英語7ドハント科目	C2A	
フランス語Ⅳa[講読]	1	秋吉孝浩	秋	全学共通科目 外国語科目	G44	
ドイツ語Ⅳa[講読]	1	甲斐浩一	秋	全学共通科目 外国語科目	A23	
スペイン語Ⅳa[講読]	1	ヘラルド	秋	全学共通科目 外国語科目	A41	
中国語Ⅱb	1	バン新平	秋	全学共通科目 外国語科目	A21	
中国語Ⅳa	1	和泉ひとみ	秋	全学共通科目 外国語科目	B34	
朝鮮語Ⅳb	1	金美華	秋	全学共通科目 外国語科目	B31	
日本語Ⅳb	1	島田順子	秋	全学共通科目 外国語科目	G53	
英語コミュニケーションⅡ	2	テニーシャ	秋	全学共通科目 外国語科目	E42	
現代の心理学	2	増田千景	秋	全学共通科目 広域科目	D21	
現代の政治	2	井口吉男	秋	全学共通科目 広域科目	D11	
キャリアデザイン	2	鴨谷香	秋	全学共通科目 広域科目	D12	
Basic English B	2	北村ひろよ	秋	学科専攻科目 入門科目	C2C	
Basic English B	2	菅原愛理	秋	学科専攻科目 入門科目	C2D	
多文化共生論	2	神崎隼人	秋	学科専攻科目 領域科目	D42	
英語文学B	2	古賀哲男	秋	学科専攻科目 英語7ドハント科目	C2A	
3時限目	英語Ⅰa[R&W]	1	菅原愛理	春	全学共通科目 外国語科目	C2D
	フランス語Ⅰa[講読]	1	秋吉孝浩	春	全学共通科目 外国語科目	G64
	フランス語Ⅰa[講読]	1	大場千景	春	全学共通科目 外国語科目	E23
	ドイツ語Ⅰa[講読]	1	甲斐浩一	春	全学共通科目 外国語科目	A23
	スペイン語Ⅰa[講読]	1	河邊真次	春	全学共通科目 外国語科目	E22
	スペイン語Ⅰb[文法]	1	神崎隼人	春	全学共通科目 外国語科目	B22
	スペイン語Ⅰb[文法]	1	新谷美紀子	春	全学共通科目 外国語科目	A21
	中国語Ⅰa	1	和泉ひとみ	春	全学共通科目 外国語科目	B34
	中国語Ⅰa	1	張 衛	春	全学共通科目 外国語科目	A41
	中国語Ⅰa	1	山内一恵	春	全学共通科目 外国語科目	G52
中国語Ⅰb	1	陳 昭宣	春	全学共通科目 外国語科目	G63	
中国語Ⅰb	1	バン新平	春	全学共通科目 外国語科目	A34	
朝鮮語Ⅰa	1	崔 孝先	春	全学共通科目 外国語科目	A51	
朝鮮語Ⅰb	1	李裕淑	春	全学共通科目 外国語科目	B21	
朝鮮語Ⅰb	1	金美華	春	全学共通科目 外国語科目	B31	
日本語Ⅰb	1	島田順子	春	全学共通科目 外国語科目	G53	
TOEICⅠ	2	藤岡住恵	春	全学共通科目 外国語科目	A22	
倫理学入門	2	鈴木竜雄	春	全学共通科目 広域科目	D33	
政治学入門	2	井口吉男	春	全学共通科目 広域科目	D31	
キャリアデザイン	2	鴨谷香	春	全学共通科目 広域科目	D12	
地域研究A	2	古賀哲男	春	学科専攻科目 領域科目	C2A	
Listening and Speaking A	2	北村ひろよ	春	学科専攻科目 英語7ドハント科目	C2B	
英語Ⅱa[R&W]	1	菅原愛理	秋	全学共通科目 外国語科目	C2D	
フランス語Ⅱa[講読]	1	秋吉孝浩	秋	全学共通科目 外国語科目	G44	
フランス語Ⅱa[講読]	1	大場千景	秋	全学共通科目 外国語科目	E23	
ドイツ語Ⅱa[講読]	1	甲斐浩一	秋	全学共通科目 外国語科目	A23	
スペイン語Ⅱa[講読]	1	河邊真次	秋	全学共通科目 外国語科目	E22	
スペイン語Ⅱb[文法]	1	神崎隼人	秋	全学共通科目 外国語科目	B22	
スペイン語Ⅱb[文法]	1	新谷美紀子	秋	全学共通科目 外国語科目	A21	
中国語Ⅱa	1	和泉ひとみ	秋	全学共通科目 外国語科目	B34	
中国語Ⅱa	1	張 衛	秋	全学共通科目 外国語科目	A41	
中国語Ⅱa	1	山内一恵	秋	全学共通科目 外国語科目	G52	
中国語Ⅱb	1	陳 昭宣	秋	全学共通科目 外国語科目	G63	
中国語Ⅱb	1	バン新平	秋	全学共通科目 外国語科目	A34	
朝鮮語Ⅱa	1	崔 孝先	秋	全学共通科目 外国語科目	A51	
朝鮮語Ⅱb	1	李裕淑	秋	全学共通科目 外国語科目	B21	
朝鮮語Ⅱb	1	金美華	秋	全学共通科目 外国語科目	B31	
日本語Ⅱb	1	島田順子	秋	全学共通科目 外国語科目	G53	
TOEICⅢ	2	藤岡住恵	秋	全学共通科目 外国語科目	A22	
倫理学入門	2	鈴木竜雄	秋	全学共通科目 広域科目	D33	
現代の政治	2	井口吉男	秋	全学共通科目 広域科目	D11	
共通特殊講義	2	山本俊一郎	秋	全学共通科目 広域科目	E61	
都市デザイン論	2	鶴岡修	秋	学科専攻科目 領域科目	D32	
Listening and Speaking B	2	北村ひろよ	秋	学科専攻科目 英語7ドハント科目	C2B	

時限	開講科目名	単位	担当者	開講区分	科目区分	教室
4時限目	英語Ⅰa[R&W]	1	菅原愛理	春	全学共通科目 外国語科目	C2D
	フランス語Ⅰa[講読]	1	秋吉孝浩	春	全学共通科目 外国語科目	G64
	フランス語Ⅰa[講読]	1	大場千景	春	全学共通科目 外国語科目	E23
	スペイン語Ⅰa[講読]	1	河邊真次	春	全学共通科目 外国語科目	E22
	スペイン語Ⅰb[文法]	1	神崎隼人	春	全学共通科目 外国語科目	B22
	スペイン語Ⅰb[文法]	1	新谷美紀子	春	全学共通科目 外国語科目	A21
	中国語Ⅰa	1	和泉ひとみ	春	全学共通科目 外国語科目	B34
	中国語Ⅰa	1	張 衛	春	全学共通科目 外国語科目	A41
	中国語Ⅰa	1	山内一恵	春	全学共通科目 外国語科目	G52
	中国語Ⅰb	1	陳 昭宣	春	全学共通科目 外国語科目	G63
5時限目	中国語Ⅰb	1	バン新平	春	全学共通科目 外国語科目	A34
	朝鮮語Ⅰa	1	崔 孝先	春	全学共通科目 外国語科目	A51
	朝鮮語Ⅰb	1	李裕淑	春	全学共通科目 外国語科目	B21
	朝鮮語Ⅰb	1	金美華	春	全学共通科目 外国語科目	B31
	日本語Ⅰb	1	島田順子	春	全学共通科目 外国語科目	G53
	英語コミュニケーションⅠ	2	ポール	春	全学共通科目 外国語科目	C51
	倫理学入門	2	鈴木竜雄	春	全学共通科目 広域科目	D33
	政治学入門	2	井口吉男	春	全学共通科目 広域科目	D31
	化学入門	2	橋典子	春	全学共通科目 広域科目	D41
	統計学入門	2	中野統英	春	全学共通科目 広域科目	D21
6時限目	学科専攻科目 基幹科目	2	吉川真裕	春	学科専攻科目 基幹科目	D32
	英語Ⅱa[R&W]	1	菅原愛理	秋	全学共通科目 外国語科目	C2D
	フランス語Ⅱa[講読]	1	秋吉孝浩	秋	全学共通科目 外国語科目	G44
	フランス語Ⅱa[講読]	1	大場千景	秋	全学共通科目 外国語科目	E23
	スペイン語Ⅱa[講読]	1	河邊真次	秋	全学共通科目 外国語科目	E22
	スペイン語Ⅱb[文法]	1	神崎隼人	秋	全学共通科目 外国語科目	B22
	スペイン語Ⅱb[文法]	1	新谷美紀子	秋	全学共通科目 外国語科目	A21
	中国語Ⅱa	1	和泉ひとみ	秋	全学共通科目 外国語科目	B34
	中国語Ⅱa	1	張 衛	秋	全学共通科目 外国語科目	A41
	中国語Ⅱa	1	山内一恵	秋	全学共通科目 外国語科目	G52
7時限目	中国語Ⅱb	1	陳 昭宣	秋	全学共通科目 外国語科目	G63
	中国語Ⅱb	1	バン新平	秋	全学共通科目 外国語科目	A34
	朝鮮語Ⅱa	1	崔 孝先	秋	全学共通科目 外国語科目	A51
	朝鮮語Ⅱb	1	李裕淑	秋	全学共通科目 外国語科目	B21
	朝鮮語Ⅱb	1	金美華	秋	全学共通科目 外国語科目	B31
	日本語Ⅱb	1	島田順子	秋	全学共通科目 外国語科目	G53
	倫理学入門	2	鈴木竜雄	秋	全学共通科目 広域科目	D33
	現代の政治	2	井口吉男	秋	全学共通科目 広域科目	D11
	共通特殊講義	2	山本俊一郎	秋	全学共通科目 広域科目	E61
	都市デザイン論	2	鶴岡修	秋	学科専攻科目 領域科目	D32
8時限目	Listening and Speaking B	2	北村ひろよ	秋	学科専攻科目 英語7ドハント科目	C2B
	英語Ⅱa[R&W]	1	菅原愛理	秋	全学共通科目 外国語科目	C2D
	フランス語Ⅱa[講読]	1	秋吉孝浩	秋	全学共通科目 外国語科目	G44
	フランス語Ⅱa[講読]	1	大場千景	秋	全学共通科目 外国語科目	E23
	ドイツ語Ⅱa[講読]	1	甲斐浩一	秋	全学共通科目 外国語科目	A23
	スペイン語Ⅱa[講読]	1	河邊真次	秋	全学共通科目 外国語科目	E22
	スペイン語Ⅱb[文法]	1	神崎隼人	秋	全学共通科目 外国語科目	B22
	スペイン語Ⅱb[文法]	1	新谷美紀子	秋	全学共通科目 外国語科目	A21
	中国語Ⅱa	1	和泉ひとみ	秋	全学共通科目 外国語科目	B34
	中国語Ⅱa	1	張 衛	秋	全学共通科目 外国語科目	A41
9時限目	中国語Ⅱa	1	山内一恵	秋	全学共通科目 外国語科目	G52
	中国語Ⅱb	1	陳 昭宣	秋	全学共通科目 外国語科目	G63
	中国語Ⅱb	1	バン新平	秋	全学共通科目 外国語科目	A34
	朝鮮語Ⅱa	1	崔 孝先	秋	全学共通科目 外国語科目	A51
	朝鮮語Ⅱb	1	李裕淑	秋	全学共通科目 外国語科目	B21
	朝鮮語Ⅱb	1	金美華	秋	全学共通科目 外国語科目	B31
	日本語Ⅱb	1	島田順子	秋	全学共通科目 外国語科目	G53
	倫理学入門	2	鈴木竜雄	秋	全学共通科目 広域科目	D33
	現代の政治	2	井口吉男	秋	全学共通科目 広域科目	D11
	共通特殊講義	2	山本俊一郎	秋	全学共通科目 広域科目	E61
10時限目	都市デザイン論	2	鶴岡修	秋	学科専攻科目 領域科目	D32
	Listening and Speaking B	2	北村ひろよ	秋	学科専攻科目 英語7ドハント科目	C2B
	英語Ⅱa[R&W]	1	菅原愛理	秋	全学共通科目 外国語科目	C2D
	フランス語Ⅱa[講読]	1	秋吉孝浩	秋	全学共通科目 外国語科目	G44
	フランス語Ⅱa[講読]	1	大場千景	秋	全学共通科目 外国語科目	E23
	ドイツ語Ⅱa[講読]	1	甲斐浩一	秋	全学共通科目 外国語科目	A23
	スペイン語Ⅱa[講読]	1	河邊真次	秋	全学共通科目 外国語科目	E22
	スペイン語Ⅱb[文法]	1	神崎隼人	秋	全学共通科目 外国語科目	B22
	スペイン語Ⅱb[文法]	1	新谷美紀子	秋	全学共通科目 外国語科目	A21
	中国語Ⅱa	1	和泉ひとみ	秋	全学共通科目 外国語科目	B34
11時限目	中国語Ⅱa	1	張 衛	秋	全学共通科目 外国語科目	A41
	中国語Ⅱa	1	山内一恵	秋	全学共通科目 外国語科目	G52
	中国語Ⅱb	1	陳 昭宣	秋	全学共通科目 外国語科目	G63
	中国語Ⅱb	1	バン新平	秋	全学共通科目 外国語科目	A34
	朝鮮語Ⅱa	1	崔 孝先	秋	全学共通科目 外国語科目	A51
	朝鮮語Ⅱb	1	李裕淑	秋	全学共通科目 外国語科目	B21
	朝鮮語Ⅱb	1	金美華	秋	全学共通科目 外国語科目	B31
	日本語Ⅱb	1	島田順子	秋	全学共通科目 外国語科目	G53
	倫理学入門	2	鈴木竜雄	秋	全学共通科目 広域科目	D33
	現代の政治	2	井口吉男	秋	全学共通科目 広域科目	D11
12時限目	共通特殊講義	2	山本俊一郎	秋	全学共通科目 広域科目	E61
	都市デザイン論	2	鶴岡修	秋	学科専攻科目 領域科目	D32
	Listening and Speaking B	2	北村ひろよ	秋	学科専攻科目 英語7ドハント科目	C2B
	英語Ⅱa[R&W]	1	菅原愛理	秋	全学共通科目 外国語科目	C2D
	フランス語Ⅱa[講読]	1	秋吉孝浩	秋	全学共通科目 外国語科目	G44
	フランス語Ⅱa[講読]	1	大場千景	秋	全学共通科目 外国語科目	E23
	ドイツ語Ⅱa[講読]	1	甲斐浩一	秋	全学共通科目 外国語科目	A23
	スペイン語Ⅱa[講読]	1	河邊真次	秋	全学共通科目 外国語科目	E22
	スペイン語Ⅱb[文法]	1	神崎隼人	秋	全学共通科目 外国語科目	B22
	スペイン語Ⅱb[文法]	1	新谷美紀子	秋	全学共通科目 外国語科目	A21
13時限目	中国語Ⅱa	1	和泉ひとみ	秋	全学共通科目 外国語科目	B34
	中国語Ⅱa	1	張 衛	秋	全学共通科目 外国語科目	A41
	中国語Ⅱa	1	山内一恵	秋	全学共通科目 外国語科目	G52
	中国語Ⅱb	1	陳 昭宣	秋	全学共通科目 外国語科目	G63
	中国語Ⅱb	1	バン新平	秋	全学共通科目 外国語科目	A34
	朝鮮語Ⅱa	1	崔 孝先	秋	全学共通科目 外国語科目	A51
	朝鮮語Ⅱb	1	李裕淑	秋	全学共通科目 外国語科目	B21
	朝鮮語Ⅱb	1	金美華	秋	全学共通科目 外国語科目	B31
	日本語Ⅱb	1	島田順子	秋	全学共通科目 外国語科目	G53
	倫理学入門	2	鈴木竜雄	秋	全学共通科目 広域科目	D33
14時限目	現代の					

国際共創学部\_時間割表\_土曜日

時限	開講科目名	単位	担当者	開講区分	科目区分	教室
4 時 限 目	法学入門	2	栗城利明	春	全学共通科目 広域科目	G62
5 時 限 目	法学入門	2	栗城利明	春	全学共通科目 広域科目	G62
	自然地理学	2	別所秀高	春	全学共通科目 広域科目	E21
6 時 限 目	自然地理学	2	別所秀高	春	全学共通科目 広域科目	E21

国際共創学部\_時間割表\_集中講義

時限	開講科目名	単位	担当者	開講区分	科目区分	教室
そ の 他	語学研修	2	大野あずさ 他	集中	全学共通科目 広域科目	C4C
	Development of Multicultural Awareness	2	島村幸忠	集中	学科専攻科目 入門科目	D12
	国際保健論	2	鈴木高史	集中	学科専攻科目 領域科目	E22
	地域イノベーション	2	飯盛義徳	集中	学科専攻科目 領域科目	E32
	グローバル・リサーチA	2	梅村仁	集中	学科専攻科目 共創科目	C3A
	グローバル・リサーチB	2	大和里美	集中	学科専攻科目 共創科目	C3B
	ローカル・リサーチA	2	酒井大策	集中	学科専攻科目 共創科目	C2A
	ローカル・リサーチB	2	坂本ひとみ	集中	学科専攻科目 共創科目	C2B
	国際共創プログラム	2	沖浦文彦	集中	学科専攻科目 共創科目	C4A

(趣旨)

第1条 この規程は、大阪経済大学学則（以下「学則」という。）第5条に基づき、各学部置く教授会（以下「学部教授会」という。）の運営および学部教授会に関わる校務について必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 学部教授会は、次の事項を審議し、学長に意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学、卒業および課程の修了に関する事項
- (2) 学位の授与に関する事項
- (3) 前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

2 学部教授会は、前項に規定するもののほか、学長および学部長等がつかさどる教育研究に関する次の事項について審議し、および学長または学部長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

- (1) 学部の機構、組織ならびに制度に関する事項
- (2) 学則ならびに学部諸規程の制定、改廃に関する事項
- (3) 学部長候補者の選出に関する事項
- (4) 教員の任免、昇降任に関する事項
- (5) 前2号を除く副学部長その他の教員の人事に関する事項
- (6) 教授および研究に関する事項
- (7) 学科、課程、授業および学業評価に関する事項
- (8) 学生生活に関する事項
- (9) 学生の賞罰に関する事項
- (10) その他教育研究に関する事項で学長または学部長等から諮問された事項

3 全学に共通する教育研究に関する重要事項を審議し、学長の求めに応じ意見を述べるため学部教授会を合同で行うことができる（以下、学部合同教授会という）。

4 学長が自らの校務に関して教授会の意見を本条1項(3)号によって聴く場合、本条2項各号の事項と重なる場合がある。

(構成員)

第3条 学部教授会は、学部所属している専任教員をもって構成する。

2 学部長は、必要があると認めたときは、教授会構成員以外の教職員を教授会に出席させ報告または意見を求めることができる。

3 学部合同教授会は、各学部教授会の構成員のすべての者をもって構成する。

(招集)

第4条 学部教授会は、学部長がこれを招集し、その議長となる。

- 2 やむを得ない事情のため、学部長が欠席する場合は、予め学部長の指名する者が、これを代行する。
- 3 学部合同教授会は、学長が招集し、その議長となる。

第5条 学部長は、学長または学部教授会構成員の3分の1以上の者から、会議に付すべき議題を示して会議の招集を請求された場合は、すみやかに教授会を招集しなければならない。

2 学長は、学部合同教授会構成員の3分の1以上の者から、会議に付すべき議題を示して会議の招集を請求された場合は、すみやかに学部合同教授会を招集しなければならない。

3 前二項において、学部教授会または学部合同教授会の招集を請求する者は、「招集請求書」（別紙様式）を企画部教学企画課へ提出しなければならない。「招集請求書」の提出は、企画部教学企画課への直接の持参か、本学が発行した個人用メールアドレスから発信されたメールに限るものとする。

第6条 会議事項は、原則として開催日の3日前までにこれを公示しなければならない。

（定足数）

第7条 学部教授会および学部合同教授会は、構成員の過半数の出席がなければ開くことができない。

2 留学および事故のため引き続き3カ月以上教授会に出席できない者があるときは、学部教授会の意見を聴いて学部長は、その期間その者を教授会構成員の員数から除外することができる。

（合意）

第8条 学部教授会および学部合同教授会が審議事項について合意を必要とする場合には、出席教授会構成員の過半数の同意によることを原則とする。ただし、学則の制定、改廃、および教員の任免、昇降任については3分の2以上の同意による。

（校務協議会）

第9条 教授会に関わる校務を協議するため、校務協議会を置く。

2 校務協議会は学長、副学長、学長補佐、学部長をもって構成する。

3 校務協議会は、学長が招集し、その議長となる。

4 校務協議会の運営について必要な事項は別に定める。

（議事録）

第10条 学部教授会および学部合同教授会の議事は、議長の責任においてこれを記録し、保存するものとする。

（改廃）

第11条 この規程の改廃は、教授会および学長の意見を聴いて理事会が行う。

附 則

1 この規程は、2015年3月17日に制定し、同年4月1日から施行する。この規程の施行により、「大

阪経済大学経済学部教授会規程」、「大阪経済大学経営学部教授会規程」、「大阪経済大学情報社会学部教授会規程」および「大阪経済大学人間科学部教授会規程」は廃止する。

- 2 この規程は、2018年4月24日に改正し、2018年5月1日から施行する。
- 3 この規程は、2019年3月19日に改正し、同日から施行する。
- 4 この規程は、2019年9月24日に改正し、同日から施行する。
- 5 この規程は、2022年3月15日に改正し、2022年4月1日から施行する。

大阪経済大学学長会議規程

2021年12月7日制定

(目的)

第1条 大阪経済大学学長会議（以下「会議」という。）は、本学の教学全般に関する諸課題について協議することを目的とする。

(構成員)

第2条 会議は、次の者をもって構成する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学長補佐
- (4) 事務局長
- (5) 事務局次長

2 その他、学長が必要と認めたときは、構成員以外の者を会議に出席させることができる。

(任期)

第3条 構成員の任期は、その職にある期間とする。

(招集)

第4条 会議は、学長が招集し、議長となる。

(定足数)

第5条 会議は、第2条第1項に定める構成員の過半数の出席がなければ開くことができない。

(協議事項)

第6条 会議は、次の事項を協議する。

- (1) 教学の管理運営に関する事項
- (2) 校務協議会において、協議、連絡調整が必要な事項
- (3) その他、学長が必要と認める事項

(議事録)

第7条 会議の議事は、議長の責任においてこれを記録し、保存するものとする。

(事務)

第8条 会議の事務は、企画部教学企画課において行う。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、会議の意見を聴いて、学長が行う。

附則

1 この規程は、2021年12月7日に制定し、2022年4月1日より施行する。

校務協議会規程

2016年3月10日制定

2022年3月15日改正

(趣旨)

第1条 この規程は、大阪経済大学教授会規程第9条第4項に基づき、校務協議会の運営について必要な事項を定める。

(協議、連絡調整事項)

第2条 校務協議会は、教授会に関わる校務および教育研究に関する次の事項の協議、連絡調整を行う。

- (1) 各教授会に共通する議題および審議内容に関する事項。
- (2) 教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項。
- (3) 学長および学部長等がつかさどる教育研究に関する事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長または学部長等が求める事項。
- (4) 教授会の意見を聴くことが必要なものとして理事会が求める事項。
- (5) 教授会の意見を聴いて、学長または、理事会が決定した事項のうち、教授会に報告する事項。
- (6) その他教育研究に関する事項。

(構成員)

第3条 校務協議会の構成員は、大阪経済大学教授会規程第9条第2項に定める者をもって構成する。

2 学長は、必要があると認めるときは、校務協議会構成員以外の者を校務協議会に出席させ、報告または意見を求めることができる。

3 構成員の任期はその役職在任期間とする。

(招集)

第4条 校務協議会は、学長が招集し、その議長となる。

2 学長に支障あるときは、あらかじめ校務協議会において定めた順位に従い、構成員が議長を務める。

(議事録)

第5条 校務協議会の議事は、議長の責任においてこれを記録し、保存するものとする。

(事務)

第6条 校務協議会の事務は、教学企画課において行う。

(改廃)

第7条 この規程の改廃は、校務協議会が発議し、教授会の意見を聴いて、学長が行う。

附 則

- 1 本規程は、2016年3月10日に制定し、同日から施行する。
- 2 本規程は、2019年11月15日に改正し、同年4月1日から適用する。
- 3 本規程は、2022年3月15日に改正し、同年4月1日から施行する。

## 全学FD委員会規程

2019年6月14日改正

## (目的)

第1条 本学の教育理念に基づく教員に求められる諸活動について、その資質向上を図るファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という）の推進を目的に全学FD委員会（以下「本委員会」という）を設置する。

## (事業)

第2条 前条の目的を達成するため、本委員会は以下の事業を行う。

- (1) 教育活動を改善するための、全学および学部、研究科における施策の検討と実施
- (2) 研究活動の活性化および社会貢献等の資質向上を図るための、全学および学部、研究科における施策の検討と実施
- (3) FDに関わる資料、情報の収集と学内広報
- (4) その他FDに係る事項

## (構成)

第3条 本委員会は次の各号の委員をもって構成する。

- (1) 教育・学習支援センター センター長
- (2) 教育・学習支援センター 副センター長
- (3) 各学部から選出された教員1名（ただし、研究科に所属する教員に限る）
- (4) 学長が指名する教員1名
- (5) 教務部長
- (6) 教育・研究支援・社会連携部長

2 本委員会の委員長は、教育・学習支援センターセンター長がこれにあたる。

## (任期)

第4条 委員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

2 任期途中に交代した委員の任期は前任者の残任期間とする。

## (運営)

第5条 委員会は委員長が招集し、議事を進行する。

2 委員会は構成員の過半数の出席によって成立し、その議決は、出席委員の過半数をもって決する。可否同数のときは、委員長の決するところによる。

3 委員会は、必要に応じ、委員以外の者の出席を求めて意見を聞くことができる。

## (事務)

第6条 本委員会に係る事務は教育・学習支援センター事務課が主管する。

## (改廃)

第7条 本規程の改廃は全学FD委員会および教授会の意見を聴いて、学長が行う。

## 附則

1 この規程は、2008年7月25日から施行する。